

「SDGs 推進 TGC しずおか 2026 by
TOKYO GIRLS COLLECTION」
における経済波及効果分析

報 告 書

令和 8 年 3 月

静岡県地域経済分析研究学会

目次

1. SDGs 推進 TGC しずおか 2026 by TOKYO GIRLS COLLECTION の開催概要	1
2. 来場者アンケート結果	2
(1) アンケート実施要領	2
(2) 回答者の属性、行動 (Q1)	3
① 性別・年齢	3
② 同行人数・同行者	4
③ 居住地	5
④ 来場に利用した主な交通手段 (複数回答)	7
(3) SDGs 推進 TGC しずおか 2026 について (Q2)	8
①-1 イベントの来場のきっかけとなった情報源 (性別)	8
①-2 イベントの来場のきっかけとなった情報源 (年齢別)	9
①-3 イベントの来場のきっかけとなった情報源 (居住地別)	10
② このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて	12
③ このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか? (複数回答)	13
④ 静岡市外の方にお尋ねします。このイベント以降、観光やレジャー、グルメ、イベント参加の目的で静岡市を訪れたいと思いますか? (複数回答)	14
⑤ 「TGC しずおか」が来年も開催された場合、参加しますか?	15
⑥ 前回の「TGC しずおか 2025」に参加 (または視聴) しましたか?	16
⑦ 「会場に来場し、参加した」又は「オンラインで視聴した」と回答した方にお聞きします。TGC しずおかへの参加 (または視聴) によって SDGs 推進を意識し、行動に移すことができましたか	17
⑧ 会場にあたって、ご自宅から会場までの片道の所要時間をお答えください	18
⑨ 会場への片道の交通費をお答えください	19
⑩ 会場に当たって、宿泊をしましたか。宿泊数、宿泊費も教えてください	20
⑪ 会場にあたって使った金額	21
3. 地域経済波及効果の分析	24
(1) 経済波及効果の分析方法	24
(2) 経済波及効果の起点となる最終需要	26
① 最終需要 1-来場者の支出 (宿泊・飲食・買い物・交通費)	26
② 最終需要 2-主催者の運営支出	29
③ 最終需要のまとめ	29
(3) 経済波及効果の分析結果の概要	30
① 企業・産業への経済波及効果 (生産誘発効果)	30
② 家計への雇用効果	32
③ 行政への税収効果	33
④ 地域社会への定住人口効果	34

凡例

本報告書の図表について、合計の数字は内訳を足した数字であるが、小数の四捨五入の端数処理の関係で、合計の数字が表示されている数字と一致しない場合がある。

1. SDGs 推進 TGC しずおか 2026 by TOKYO GIRLS COLLECTION の開催概要

今回、全国にSDGsを発信し最先端の取り組みとなるべく、史上最大級のファッションフェスタ「東京ガールズコレクション」の「地方創生プロジェクト」と「SDGsの推進」を掛け合わせた「SDGs 推進TGCしずおか2026 by TOKYO GIRLS COLLECTION」（以下、TGCしずおか2026）を開催した。

表1 TGCLしずおか2026の開催概要

主催	東京ガールズコレクション実行委員会
共催	静岡県、静岡市
日時	2026年1月10日（土） 開場11:30/開演13:00/終演18:30
会場	ツインメッセ静岡北館大展示場（静岡県静岡市駿河区曲金3丁目1番10号）
入場方法	チケット購入、全席指定席 指定席S：先行価格：13,500円、一般価格：14,000円 ※金額はすべて税込 指定席A：先行価格：10,000円、一般価格：10,500円 ※金額はすべて税込
来場者数	延べ約8,000人

2. 来場者アンケート結果

(1) アンケート実施要領

TGCしずおか2026の開催時に実施した来場者アンケートの実施概要は以下のとおりである。

表2 来場者アンケートの実施概要

調査体制	調査主体：静岡県、静岡市、東京ガールズコレクション実行委員会 調査協力：静岡県地域経済分析研究学会
実施日時	2026年1月10日（土）10:00～15:00
実施場所	ツインメッセ静岡北館大展示場
調査対象	本イベントの一般来場者
調査方法	調査員が回答依頼を口頭で行い、承諾を得た場合はQRコードを交付。 Webにより回答後、調査員が確認を行った。
回収状況	回収数591

(2) 回答者の属性、行動

① 性別・年齢 ※ () 内は前回1年前の2025年の結果である

回答者の性別をみると、女性が95.4%（前回91.6%）と大半を占めている。前回に比べて男性が3.0%（7.0%）と減少している（図1）。その他1.5%は、「答えたくない」選択肢を選んだ回答者である。

年齢では、20代の40.3%（36.1%）と10代の31.6%（36.0%）が多く、合わせて約7割を占めている（図2）。30代は12.0%（9.4%）と増加している。前回に比べて今回は、20代と30代の比重が6.8ポイント増加していることが特徴である。その反面で、10代（36.0%→31.6%）、40代（9.9%→7.8%）、50代（7.4%→6.8%）の年齢層の比重がそれぞれやや低下し、20代と30代へのイベントの訴求力が強まっている傾向を読み取ることができる。

図1 回答者の性別(n=591)

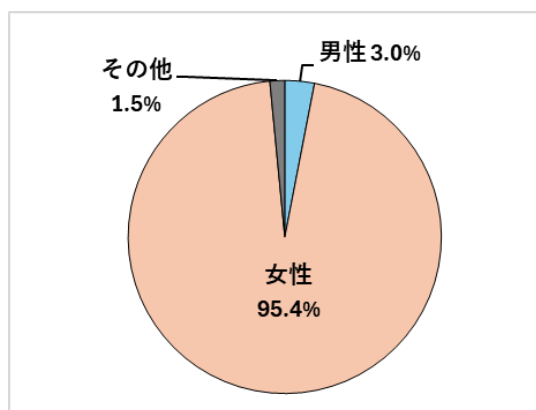


図2 回答者の年齢(n=591)

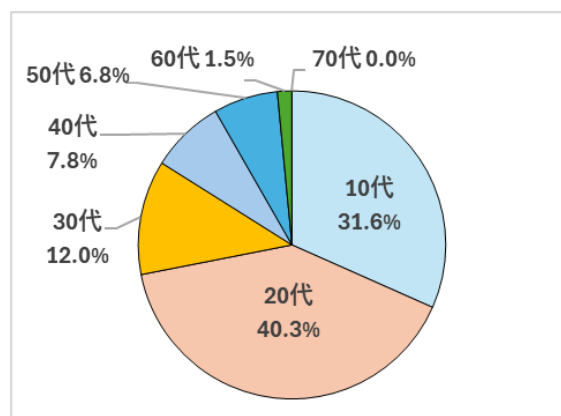


表3 性別・年齢別回答数 (n=591)

性別 年齢別	回答数(人)				年齢構成比(%)				(参考)
	男性	女性	その他 (注1)	合計	男性	女性	その他 (注1)	合計 2026	合計 (2025)
10代	2	182	3	187	11.1%	32.3%	33.3%	31.6%	36.0%
20代	10	225	3	238	55.6%	39.9%	33.3%	40.3%	36.1%
30代	3	68	0	71	16.7%	12.1%	0.0%	12.0%	9.4%
40代	1	43	2	46	5.6%	7.6%	22.2%	7.8%	9.9%
50代	1	38	1	40	5.6%	6.7%	11.1%	6.8%	7.4%
60代	1	8	0	9	5.6%	1.4%	0.0%	1.5%	1.3%
70代以上	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	18	564	9	591	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男女構成比	3.0%	95.4%	1.5%	100.0%					
〃 (2025年)	7.0%	91.6%	1.3%	100.0%					

(注1) 性別の「その他」は選択肢「答えたくない」と回答した人の集計である。

② 同行人数・同行者

一緒に来た人数を尋ねたところ、「2人」との回答が 62.8%（前回 71.9%）であり、前回に比べて減少している。次いで「3人」が 14.9%（13.0%）、「1人」が 9.1%（7.2%）、「4人」が 9.1%（4.8%）、「5人以上」が 4.1%（3.0%）となっている（図3）。2人連れが減少した分、1人と3人から5人以上の来場者が増えている。

同行者については、「友人」が 65.1%（56.7%）と最も多く3人に2人が友人連れであった。「家族」が 23.7%（31.3%）が減少した一方で、「1人」8.8%（6.9%）が前回から増加した。「友人」が増えていることが今回の特徴である。「仕事仲間」0.8%（3.5%）、「カップル」0.8%（1.5%）はそれぞれ前回から減少している（図4）。

図3 同行人数(n=591)

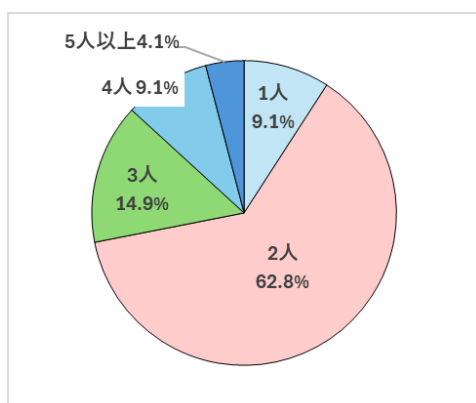


図4 同行者(n=591)

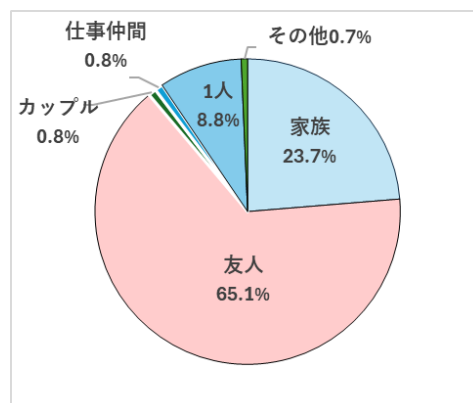


表4 同行人数・同行者 (n=591)

回答者数(人)	1人	2人	3人	4人	5人以上	合計
1. 家族	0	99	21	16	4	140
2. 友人	2	262	66	38	17	385
3. カップル	0	5	0	0	0	5
4. 仕事仲間	1	4	0	0	0	5
5. 1人	51	1	0	0	0	52
6. その他	0	0	1	0	3	4
合計	54	371	88	54	24	591

構成比(%)	1人	2人	3人	4人	5人以上	合計(縦)	縦合計(2025)
1. 家族	0.0%	70.7%	15.0%	11.4%	2.9%	23.7%	31.3%
2. 友人	0.5%	68.1%	17.1%	9.9%	4.4%	65.1%	56.7%
3. カップル	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	1.5%
4. 仕事仲間	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	3.5%
5. 1人	98.1%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	8.8%	6.9%
6. その他	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	75.0%	0.7%	0.2%
合計(横)	9.1%	62.8%	14.9%	9.1%	4.1%	100.0%	100.0%
合計(2025)	7.2%	71.9%	13.0%	4.8%	3.0%	100.0%	

③ 居住地

静岡市内が23.7%（前回29.6%）、静岡市以外の静岡県内が31.3%（41.5%）、静岡県外からは45.0%（28.9%）であった。静岡市内と静岡市以外の静岡県内の居住者の割合が減少し、静岡県外からの来場者が半数近くに増え、参加者の「居住地の広域化」の傾向が昨年度を除いて続いている（表5-1 表5-2・図5）。静岡県外からの来場者に静岡市と静岡県を知ってもらう良い機会となっている。

表 5-1 参加者の居住地—まとめ（n=591）

	回答者数 (人)	構成比 2026	推定来場 者数(人)	(参考)構成比の推移			
				2025	2024	2023	2020
静岡県内	325	55.0%	4,399	71.1%	56.6%	64.6%	75.1%
静岡市	140	23.7%	1,895	29.6%	21.0%	29.1%	34.4%
葵区	46	7.8%	623	10.0%	7.8%	10.8%	12.0%
駿河区	45	7.6%	609	11.4%	6.7%	9.0%	11.3%
清水区	49	8.3%	663	8.2%	6.5%	8.7%	10.2%
区不詳	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0.7%	0.8%
静岡市以外の静岡県内	185	31.3%	2,504	41.5%	35.6%	35.5%	40.7%
静岡県外	266	45.0%	3,601	28.9%	43.4%	35.4%	24.6%
居住地不詳	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0.2%	0.3%
合計	591	100.0%	8,000	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）2020年と2023年の間が空いているのは、新型コロナウイルス感染症拡大により開催されなかったためである。

図 5 参加者の居住地（n=591）

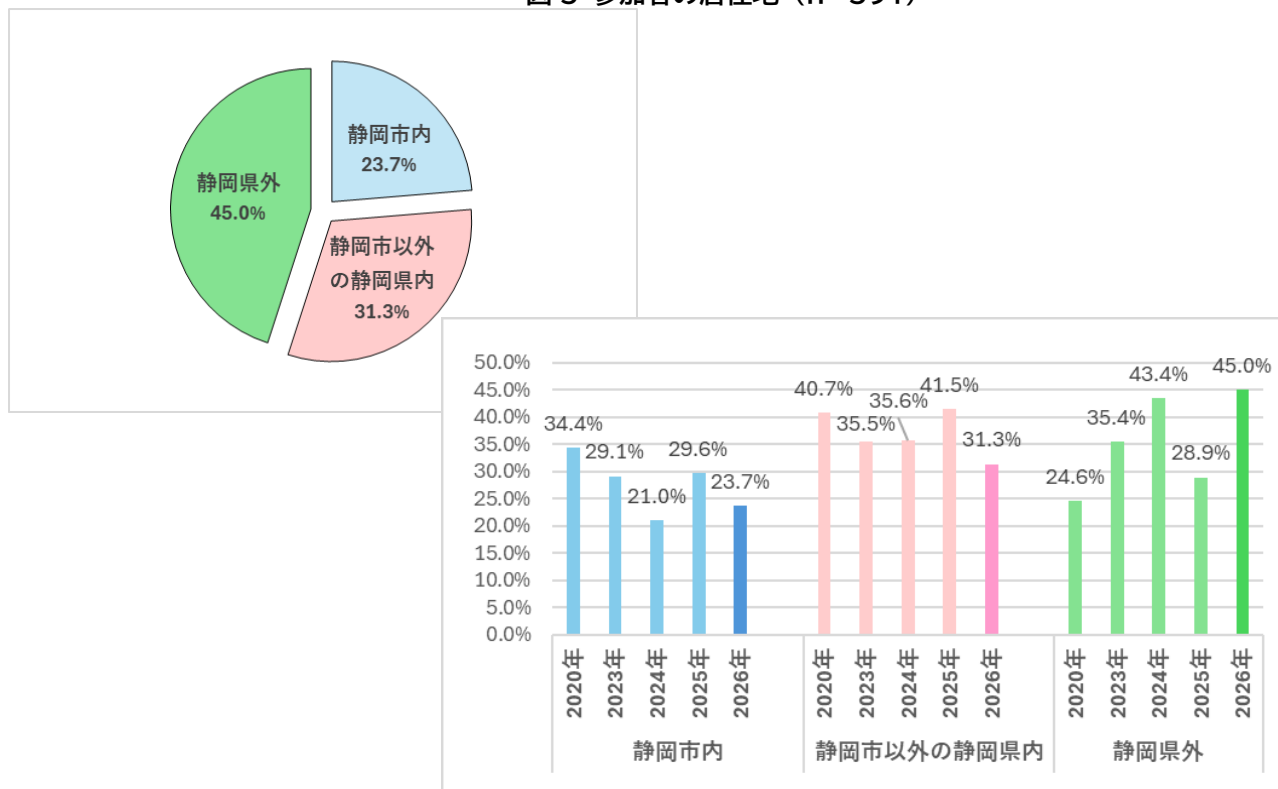


表 5-2 参加者の居住地－詳細 (n=591)

居住地	回答者数	推定来場者数	構成比と推移				
			2026	2025	2024	2023	2020
静岡県内	325	4,399	55.0%	71.1%	56.6%	64.6%	75.5%
東部・伊豆	48	650	8.1%	6.0%	5.1%	11.0%	12.7%
沼津市	3	41	0.5%	0.7%	1.1%	1.2%	1.5%
熱海市						0.3%	0.3%
三島市	5	68	0.8%	1.0%	0.2%	1.5%	0.8%
伊東市	4	54	0.7%	0.2%		0.3%	0.2%
下田市							
伊豆市	3	41	0.5%	0.2%	0.2%		
伊豆の国市	1	14	0.2%	0.2%		1.0%	0.2%
東伊豆町							
河津町				0.2%			0.2%
南伊豆町						0.3%	0.2%
松崎町							
西伊豆町				0.2%	0.2%		
函南町	1	14	0.2%	0.2%		0.5%	0.2%
富士宮市	7	95	1.2%	0.3%	0.4%	1.7%	2.3%
富士市	14	190	2.4%	2.3%	2.5%	3.2%	4.7%
御殿場市	7	95	1.2%		0.2%	0.2%	0.3%
裾野市				0.3%	0.4%	0.2%	0.5%
清水町	1	14	0.2%	0.3%		0.3%	1.0%
長泉町	1	14	0.2%			0.3%	0.3%
小山町	1	14	0.2%		0.2%		
中部地域	182	2,464	30.8%	36.5%	28.6%	39.4%	50.6%
静岡市	140	1,895	23.7%	29.6%	21.0%	29.1%	34.4%
葵区	46	623	7.8%	10.0%	7.8%	10.8%	12.0%
駿河区	45	609	7.6%	11.4%	6.7%	9.0%	11.3%
清水区	49	663	8.3%	8.2%	6.5%	8.7%	10.2%
区不詳						0.7%	0.8%
島田市	4	54	0.7%	1.3%	1.4%	2.8%	2.7%
焼津市	13	176	2.2%	2.5%	2.5%	3.2%	5.5%
藤枝市	14	190	2.4%	1.5%	2.7%	2.2%	4.7%
牧之原市	7	95	1.2%	1.0%	0.9%	1.0%	0.8%
吉田町	4	54	0.7%	0.3%	0.2%	0.8%	0.8%
川根本町				0.2%		0.3%	1.7%
西部地域	42	569	7.1%	9.5%	8.1%	13.5%	11.9%
浜松市	25	338	4.2%	3.7%	5.0%	8.3%	6.8%
磐田市	4	54	0.7%	1.2%	0.7%	0.8%	1.3%
掛川市	3	41	0.5%	1.2%	0.9%	2.0%	1.5%
袋井市	2	27	0.3%	0.5%	0.7%	0.7%	0.8%
湖西市	2	27	0.3%	1.0%		0.8%	0.3%
御前崎市	1	14	0.2%	0.7%			0.2%
菊川市	5	68	0.8%	1.3%	0.9%	0.7%	0.7%
森町						0.2%	0.8%
市町村名不詳	53	717	9.0%	19.1%	14.7%	0.7%	0.3%
静岡県外	266	3,601	45.0%	28.9%	29.0%	35.4%	24.6%
北海道	2	27	0.3%	0.2%			
岩手県						0.2%	
宮城県	2	27	0.3%			0.2%	0.2%
福島県						0.2%	0.2%
茨城県	1	14	0.2%	0.5%	0.9%	0.5%	0.3%
栃木県				0.2%	0.7%	0.3%	0.2%
群馬県	1	14	0.2%	0.5%	0.2%		0.7%
埼玉県	10	135	1.7%	2.3%	2.5%	2.0%	0.5%
千葉県	7	95	1.2%	1.3%	1.8%	2.2%	0.7%
東京都	18	244	3.0%	3.3%	5.7%	7.2%	4.8%
神奈川県	28	379	4.7%	2.5%	3.0%	5.0%	3.8%
新潟県	2	27	0.3%			0.2%	0.2%
富山県						0.4%	
石川県	2	27	0.3%		0.5%	0.2%	
福井県							0.2%
山梨県	6	81	1.0%	1.0%	0.9%	1.0%	0.2%
長野県	3	41	0.5%	0.2%	1.1%	0.2%	0.3%
岐阜県					1.6%	0.3%	2.3%
愛知県	24	325	4.1%	3.8%	5.1%	5.7%	6.1%
三重県				0.5%	0.9%	1.8%	1.0%
滋賀県	4	54	0.7%	0.2%	0.2%	1.5%	
京都府	1	14	0.2%	0.2%			
大阪府	10	135	1.7%	0.3%	1.1%	3.0%	0.8%
兵庫県	5	68	0.8%	0.3%	0.9%	1.0%	0.8%
奈良県	1	14	0.2%	0.2%			
和歌山県						0.2%	0.3%
岡山県				0.3%			0.7%
広島県					0.5%	0.2%	0.2%
徳島県							0.2%
香川県							0.2%
愛媛県					0.4%		
福岡県				0.2%			
佐賀県	1	14	0.2%				
長崎県							0.7%
大分県	1	14	0.2%				0.2%
宮崎県				0.2%			
沖縄県	1	14	0.2%	0.2%			
県名不明	136	1,841	23.0%	10.4%			
居住地不詳							0.2%
合計	591	8,000	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注) 四捨五入の関係で表示されている内訳の合計が合計欄と一致しない場合がある。

④ 来場に利用した主な交通手段（複数回答）

来場者の居住地の広域化（県外居住者の比率の増加）を反映して、来場者が利用した交通手段の中で最も多かったのは新幹線 34.0%（前回 19.9%）であった。県外居住者の 69.2% が利用している（表 6、図 6）。

次いで多かったのが自家用車 32.7%（44.3%）であり、静岡市居住者で 60.0%、静岡市以外の静岡県内居住者の 45.4% を占め、それぞれ利用交通手段の第 1 位を占めている。静岡市以外の静岡県内居住者は JR・静岡鉄道の利用者も多く、41.6% となっている。県外居住者の中には飛行機を利用した来場者も 0.8% いて、この比率を来場者 8,000 人にあてはめると 70 人近くが飛行機を利用して静岡に来たと推定される。

図 6 主な交通手段（複数回答:回答者総数 591 人に対する回答数の比率）（n=591）

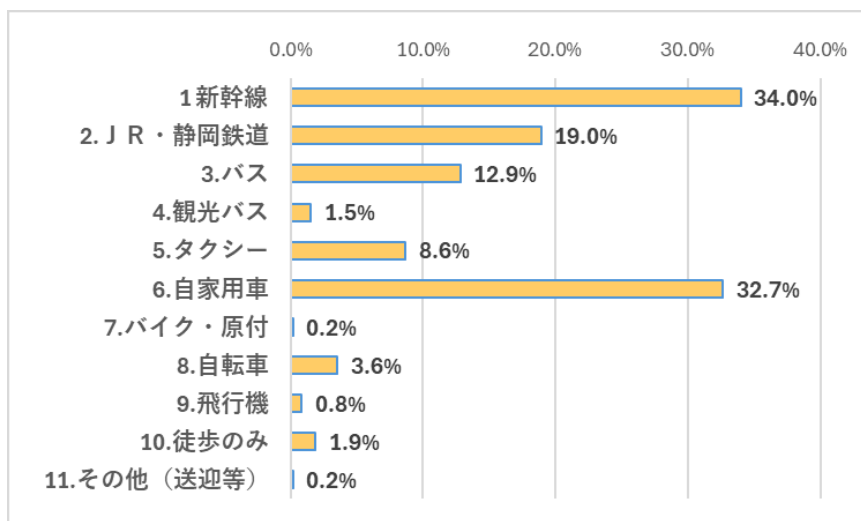


表 6 主な交通手段（複数回答:回答者総数 591 人に対する回答数の比率）（n=591）

交通手段	回答数				対回答者数比			(参考)	
	静岡市	静岡市以外の静岡県内	静岡県外	回答数合計	静岡市	静岡市以外の静岡県内	静岡県外	合計 2026	合計 2025
1.新幹線	0	17	184	201	0.0%	9.2%	69.2%	34.0%	19.9%
2.JR・静岡鉄道	12	77	23	112	8.6%	41.6%	8.6%	19.0%	22.6%
3.バス	12	26	38	76	8.6%	14.1%	14.3%	12.9%	13.4%
4.観光バス	0	4	5	9	0.0%	2.2%	1.9%	1.5%	1.0%
5.タクシー	5	16	30	51	3.6%	8.6%	11.3%	8.6%	3.3%
6.自家用車	84	84	25	193	60.0%	45.4%	9.4%	32.7%	44.3%
7.バイク・原付	1	0	0	1	0.7%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%
8.自転車	15	2	4	21	10.7%	1.1%	1.5%	3.6%	6.0%
9.飛行機	0	0	5	5	0.0%	0.0%	1.9%	0.8%	0.5%
10.徒歩のみ	10	1	0	11	7.1%	0.5%	0.0%	1.9%	1.3%
11.その他(送迎等)	1	0	0	1	0.7%	0.0%	0.0%	0.2%	0.5%
回答数	140	227	314	681	100.0%	122.7%	118.0%	115.2%	112.9%
回答者数	140	185	266	591	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(3) SDGs 推進 TGC しずおか 2026 について

① -1 イベントの来場のきっかけとなった情報源（性別）

情報源を対回答者数比で見ると、X（旧 Twitter）が 25.2%（前回 13.9%）と比重を大きく増やしている。反面で、TGC しずおか公式 HP 24.0%（27.4%）、Instagram 23.2%（27.6%）、家族や知人、職場の情報 19.5%（23.7%）が比重を減らしている。イベント等による告知活動 10.7%（8.0%）はやや比重を増やしている（表 7、図 7）。

図 7 イベントの来場のきっかけとなった情報源（性別）※その他は略（n=591）

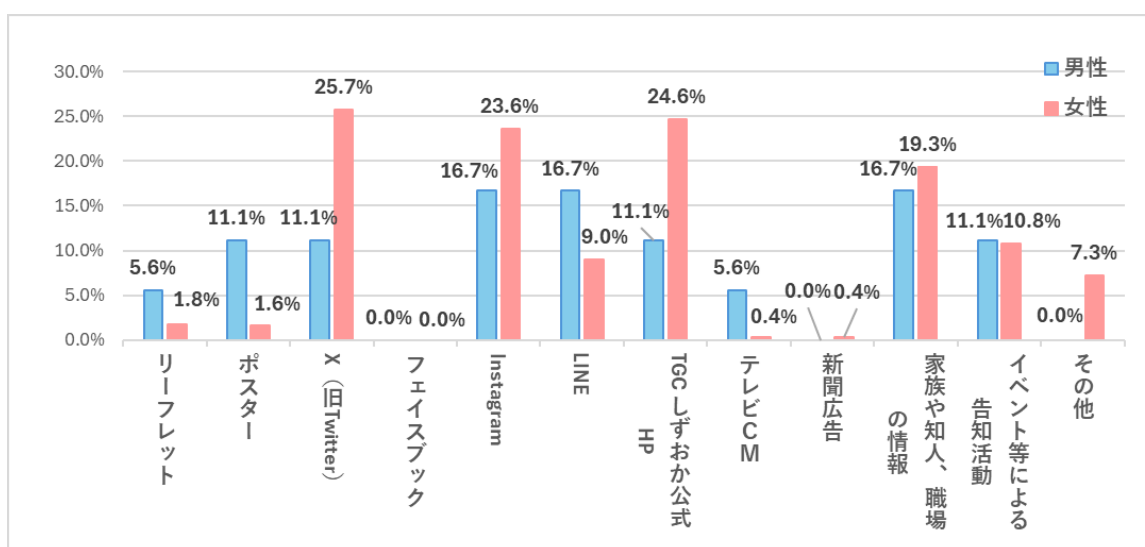


表 7 来場のきっかけとなった情報源（性別）（n=591）

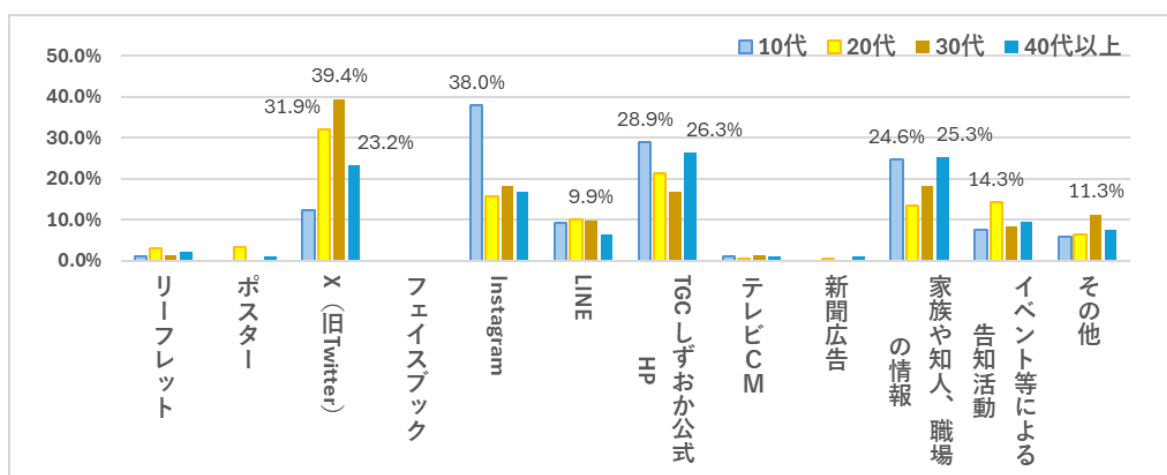
情報源	性別		回答数				対回答者数比				(参考) 合計 2025
	男性	女性	男性	女性	その他 (注)	合計	男性	女性	その他	合計 2026	
1 リーフレット	1	10	1	10	1	12	5.6%	1.8%	11.1%	2.0%	1.0%
2 ポスター	2	9	0	9	0	11	11.1%		0.0%	1.9%	4.8%
3 X(旧Twitter)	2	145	2	147	2	149	11.1%	25.7%	22.2%	25.2%	13.9%
4 フェイスブック	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5 Instagram	3	133	1	136	1	137	16.7%	23.6%	11.1%	23.2%	27.6%
6 LINE	3	51	0	54	0	54	16.7%	9.0%	0.0%	9.1%	7.0%
7 TGC しずおか公式HP	2	139	1	141	1	142	11.1%	24.6%	11.1%	24.0%	27.4%
8 テレビCM	1	2	2	3	2	5	5.6%	0.4%	22.2%	0.8%	2.2%
9 新聞広告	0	2	0	2	0	2	0.0%	0.4%	0.0%	0.3%	0.3%
10 家族や知人、職場の情報	3	109	3	112	3	115	16.7%	19.3%	33.3%	19.5%	23.7%
11 イベント等による告知活動	2	61	0	63	0	63	11.1%	10.8%	0.0%	10.7%	8.0%
12 その他	0	41	0	41	0	41	0.0%	7.3%	0.0%	6.9%	4.8%
性別合計	19	702	10	721	10	731	105.6%	124.5%	111.1%	123.7%	120.9%
回答者数	18	564	9	573	9	591	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

① -2 イベントの来場のきっかけとなった情報源（年齢別）

対回答者数比でみた情報源は、X（旧 Twitter）、TGC しずおか公式 HP、Instagram、家族や知人・職場の情報の4つが主な情報源となっているが、年齢別にみると各年齢層で特徴がある（表8、図8）。

各年齢で最も多かった情報源は、10代はInstagramの38.0%、20代はX(旧 Twitter)の31.9%、30代もX(旧 Twitter)の39.4%、40代はTGC しずおか公式 HPの26.3%であった。X（旧 Twitter）は10代が少ない反面で、Instagramは10代の占める割合が高い特徴がある。

図8 来場のきっかけとなった情報源（年齢別）（n=591）



（注）グラフ内の数値(%)は全部を紙面に表示することができないため、主な項目だけを表示した。

表8 来場のきっかけとなった情報源（年齢別）（n=591）

情報源	年齢別					対回答者数比					
	10代	20代	30代	40代以上	合計	10代	20代	30代	40代以上	合計 2026	(参考) 合計 2025
1 リーフレット	2	7	1	2	12	1.1%	2.9%	1.4%	2.1%	2.0%	1.0%
2 ポスター	2	8	0	1	11		3.4%	0.0%	1.1%	1.9%	4.8%
3 X(旧 Twitter)	23	76	28	22	149	12.3%	31.9%	39.4%	23.2%	25.2%	13.9%
4 フェイスブック	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5 Instagram	71	37	13	16	137	38.0%	15.5%	18.3%	16.8%	23.2%	27.6%
6 LINE	17	24	7	6	54	9.1%	10.1%	9.9%	6.3%	9.1%	7.0%
7 TGC しずおか公式HP	54	51	12	25	142	28.9%	21.4%	16.9%	26.3%	24.0%	27.4%
8 テレビCM	2	1	1	1	5	1.1%	0.4%	1.4%	1.1%	0.8%	2.2%
9 新聞広告	0	1	0	1	2	0.0%	0.4%	0.0%	1.1%	0.3%	0.3%
10 家族や知人、職場の情報	46	32	13	24	115	24.6%	13.4%	18.3%	25.3%	19.5%	23.7%
11 イベント等による告知活動	14	34	6	9	63	7.5%	14.3%	8.5%	9.5%	10.7%	8.0%
12 その他	11	15	8	7	41	5.9%	6.3%	11.3%	7.4%	6.9%	4.8%
性別合計	242	286	89	114	731	129.4%	120.2%	125.4%	120.0%	123.7%	120.9%
回答者数	187	238	71	95	591	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

① -3 イベントの来場のきっかけとなった情報源（居住地別）

居住地別に対回答者数比でみると、X（旧 Twitter）では静岡市内居住者 12.1%と静岡市を除く静岡県内居住者 11.4%に比べて、県外居住者の比率 41.7%が極端に高いのが目立つ。Instagram と TGC しずおか公式 HP は逆に静岡市と静岡市を除く静岡県内居住者の割合が高い（表 9、図 9）。

家族や知人、職場の情報は、静岡市 28.6%、静岡市を除く静岡県内居住者 28.1%の比率が県外居住者 8.6%に比べて顕著に高いが、これは、居住地の近くで TGC が開催されることが家庭や職場で話題となっていることを表していると思われる。

図 9 イベントの来場のきっかけとなった情報源（居住地別）（n=591）

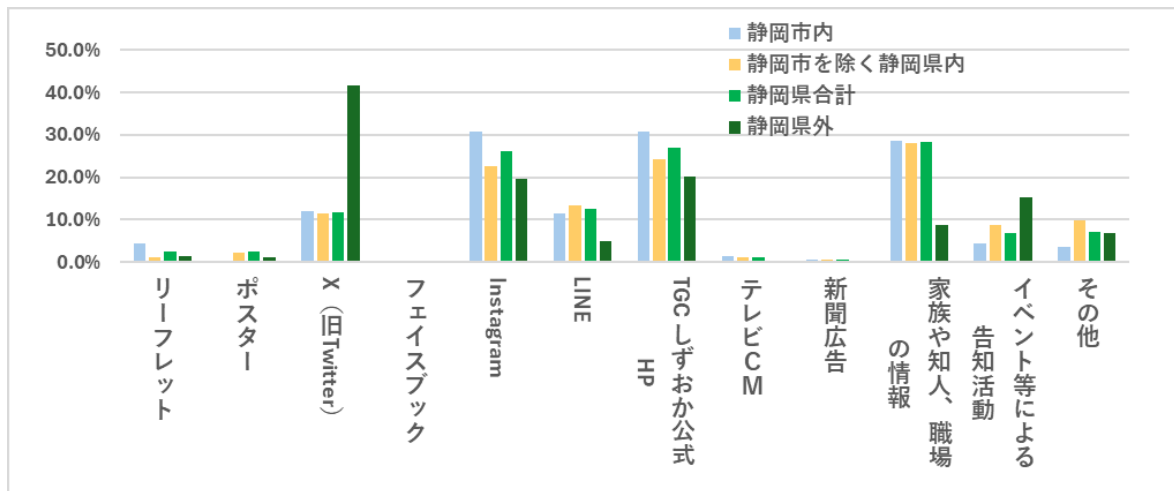


表 9 イベントの来場のきっかけとなった情報源（居住地別）（n=591）

情報源	性別	回答数				対回答者数比						
		静岡市内	静岡市を除く静岡県内	静岡県合計	静岡県外	全体合計	静岡市内	静岡市を除く静岡県内	静岡県合計	静岡県外	全体合計	(参考)合計2025
1 リーフレット		6	2	8	4	12	4.3%	1.1%	2.5%	1.5%	2.0%	1.0%
2 ポスター		4	4	8	3	11	2.2%	2.2%	2.5%	1.1%	1.9%	4.8%
3 X(旧Twitter)		17	21	38	111	149	12.1%	11.4%	11.7%	41.7%	25.2%	13.9%
4 フェイスブック		0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5 Instagram		43	42	85	52	137	30.7%	22.7%	26.2%	19.5%	23.2%	27.6%
6 LINE		16	25	41	13	54	11.4%	13.5%	12.6%	4.9%	9.1%	7.0%
7 TGC しずおか公式HP		43	45	88	54	142	30.7%	24.3%	27.1%	20.3%	24.0%	27.4%
8 テレビCM		2	2	4	1	5	1.4%	1.1%	1.2%	0.4%	0.8%	2.2%
9 新聞広告		1	1	2	0	2	0.7%	0.5%	0.6%	0.0%	0.3%	0.3%
10 家族や知人、職場の情報		40	52	92	23	115	28.6%	28.1%	28.3%	8.6%	19.5%	23.7%
11 イベント等による告知活動		6	16	22	41	63	4.3%	8.6%	6.8%	15.4%	10.7%	8.0%
12 その他		5	18	23	18	41	3.6%	9.7%	7.1%	6.8%	6.9%	4.8%
居住地別合計		183	228	411	320	731	130.7%	123.2%	126.5%	120.3%	123.7%	120.9%
回答者数		140	185	325	266	591	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

「その他」と回答した情報源の詳細

※ 回答のまま記載しています

【10代】

- 学校
- ボランティアの参加
- 去年のTGC
- 好きなアイドルが出るから
- 出演者の告知
- 毎年来ているから
- 未来プロジェクト

【20代】

- BMSGのHP
- TGCカード
- アーティストSNS
- アーティストライブ
- 応援しているアイドルが出るため
- 過去のTGCが良かったから
- 視察
- 出演
- 毎年来ているため

【30代以上】

- wild blue
- ファンクラブ
- リピーター
- 好きなアーティストが参加するため
- 推しが出るため
- 毎年来ている
- アーティストLINE
- 自社ブランドが参加のため
- MAZZELのFCから
- アーティストの告知

② このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて

イベント開催の感想について、「とても良い」という最高の評価は10代が83.4%（前回86.5%）、20代が70.6%（78.2%）、30代以上が67.5%（71.3%）であった。「良い」という回答が去年の17.4%から24.0%に増えている。若い年齢ほど評価が高い傾向がある（表10、図10）。

図10 このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて（n=591）

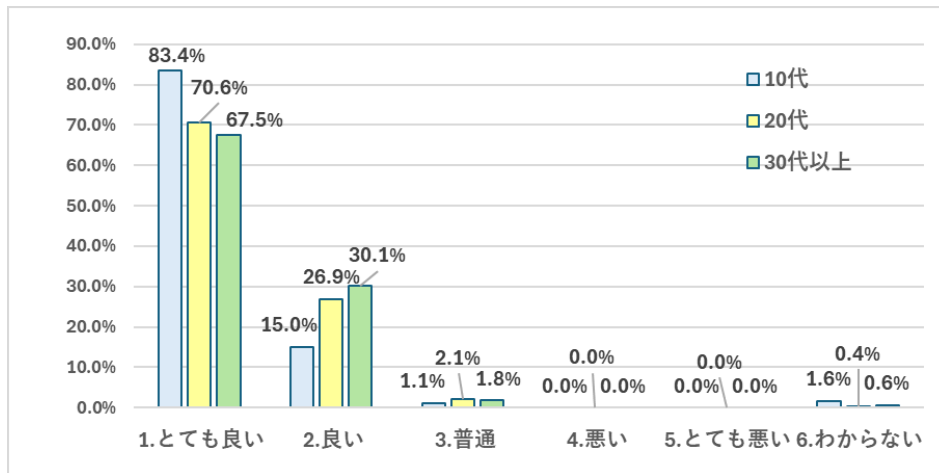


表10 このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて（n=591）

年齢 イベントの評価	回答者数											
	男性				女性				性別合計(その他含む)			
	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	合計2026
1.とても良い	2	7	5	14	153	159	106	418	156	168	112	436
2.良い	0	3	1	4	28	61	47	136	28	64	50	142
3.普通	0	0	0	0	1	4	3	8	2	5	3	10
4.悪い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5.とても悪い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6.わからない	0	0	0	0	2	1	1	4	3	1	1	5
無記入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	10	6	18	182	225	157	564	187	238	166	591

年齢 イベントの評価	回答数 構成比												(参考) 構成比
	男性				女性				性別合計(その他含む)				
	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	合計2026	
1.とても良い	100.0%	70.0%	83.3%	77.8%	84.1%	70.7%	67.5%	74.1%	83.4%	70.6%	67.5%	73.8%	79.3%
2.良い	0.0%	30.0%	16.7%	22.2%	15.4%	27.1%	29.9%	24.1%	15.0%	26.9%	30.1%	24.0%	17.4%
3.普通	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	1.8%	1.9%	1.4%	1.1%	2.1%	1.8%	1.7%	2.2%
4.悪い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
5.とても悪い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6.わからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.4%	0.6%	0.7%	1.6%	0.4%	0.6%	0.8%	0.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注) 表のスペースの関係で、性別の「その他(答えたくない)」は略して性別合計に含めている。(グラフは性別合計である)

③ このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか？（複数回答）

静岡市内で観光を行うとした回答は、合計で 21.3%（前回 23.1%）、静岡市以外の静岡県内で観光を行うとした回答は、合計で 5.2%（4.3%）であった。静岡市を含む静岡県内で観光やレジャーを行う人は、合計で 26.5%（27.4%）と 4 人に 1 人である（表 11、図 11）。静岡市を含む静岡県内で観光やレジャーを行うと回答した比率（26.5%）を約 8,000 人の参加者に乗じると 2,120 人となり、今回の TGC しずおか 2026 は、静岡市内と静岡県内に 2,000 人を上回る観光・レジャー客を誘発していると推定される。

図 11 このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか？（n=591）

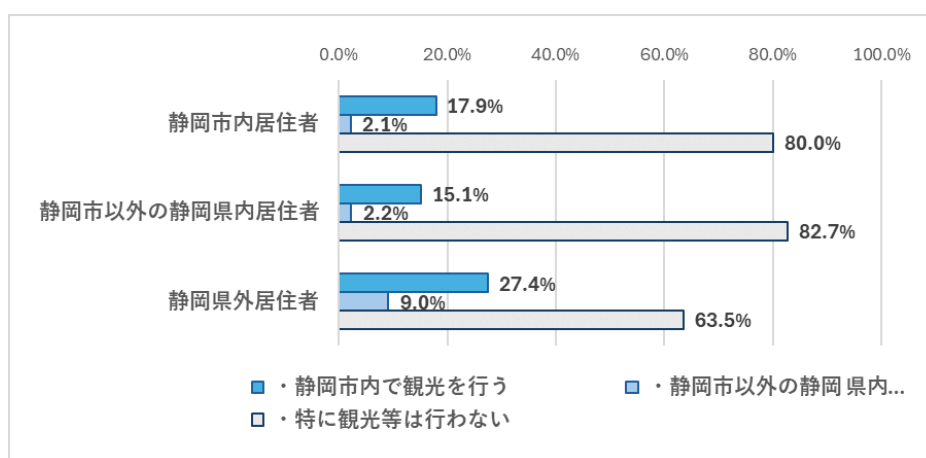


表 11 このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか？（n=591）

観光など	居住地	回答数				構成比				(参考) 合計 2025
		静岡市内	静岡市以外の静岡県内	静岡県外	合計	静岡市内	静岡市以外の静岡県内	静岡県外	合計	
・静岡市内で観光を行う		25	28	73	126	17.9%	15.1%	27.4%	21.3%	23.1%
・静岡市以外の静岡県内で観光を行う		3	4	24	31	2.1%	2.2%	9.0%	5.2%	4.3%
・特に観光等は行わない		112	153	169	434	80.0%	82.7%	63.5%	73.4%	72.6%
合計		140	185	266	591	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(表 11-付表) 観光を行う場所（居住地別）（記述回答のあった例）

居住地 訪問先	静岡県内		静岡県外			
	静岡市内	静岡市以外の静岡県内	静岡市内		静岡県内	
訪問場所	・護国神社 ・日本平	・買い物 ・一蘭 ・デパート ・日本平	・静岡市内巡り ・東照宮(2) ・さわやか(5) ・ちびまる子ちゃんランド	・駿府城 ・美術館 ・静岡おでん	・三嶋大社(6) ・三島市(3) ・御殿場アウトレット ・富士山	・浜松市(2) ・伊東 ・海

(注) 訪問場所の()は、回答数

④ 静岡市外にお住まいの方にお尋ねします。このイベント以降、静岡市を訪れたいと思いますか？（複数回答可）

静岡市以外の居住者で、「静岡市を訪れたい」と回答した人の割合は、観光やレジャー目的が43.5%（前回20.4%）、グルメ目的が24.2%（11.6%）、興味のわくイベント目的が30.4%（9.7%）と増加している。この理由は、前年までの調査票で「任意」としていたこの設問を今回は「必須」としたことで、無回答が減少した尋ね方の変更によるものと思われる（表12の右端「(参考) 合計2025」欄では無回答が62.7%となっている）。

静岡市以外の静岡県内居住者216人と静岡県外居住者266人の合計451人がこの設問の回答者数であるが、複数回答の重複を除いた集計では451人のうち372人(82.5%)が、何らかの目的で静岡市を訪れたいと回答している（表12、図12）。

図12 このイベント以降、静岡市を訪れたいと思いますか？（複数回答）（n=451）

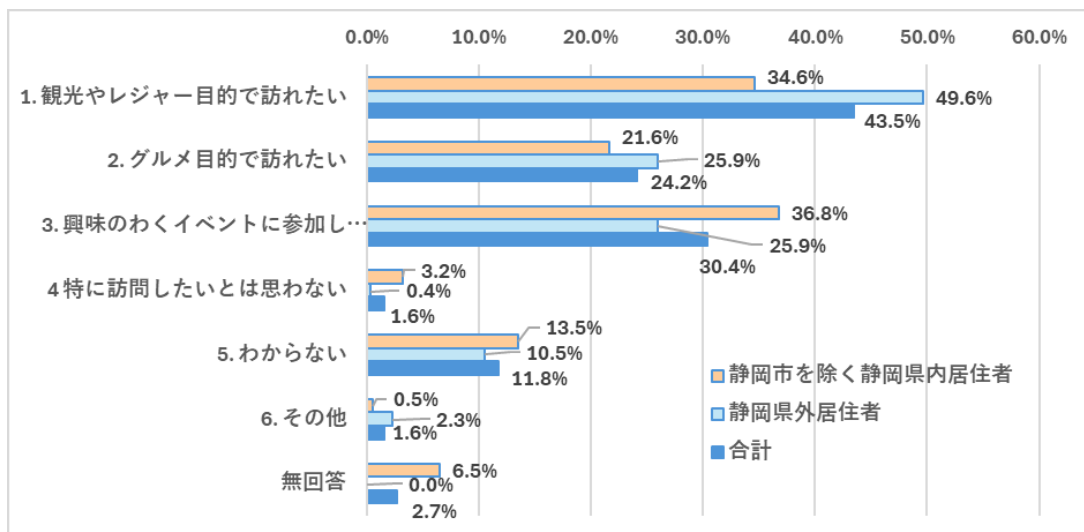


表12 このイベント以降、静岡市を訪れたいと思いますか？（複数回答）（n=451）

居住地	回答数			対回答者数比			(参考) 合計2025
	静岡県(静岡市除く)	静岡県外	合計	静岡県(静岡市除く)	静岡県外	合計	
静岡市を訪れたいと思うか							
1. 観光やレジャー目的で訪れたい	64	132	196	34.6%	49.6%	43.5%	20.4%
2. グルメ目的で訪れたい	40	69	109	21.6%	25.9%	24.2%	11.6%
3. 興味のわくイベントに参加したい	68	69	137	36.8%	25.9%	30.4%	9.7%
4. 特に訪問したいとは思わない	6	1	7	3.2%	0.4%	1.6%	1.0%
5. わからない	25	28	53	13.5%	10.5%	11.8%	3.1%
6. その他	1	6	7	0.5%	2.3%	1.6%	1.9%
無回答	12	0	12	6.5%	0.0%	2.7%	62.7%
合計	216	305	521	116.8%	114.7%	115.5%	110.5%
回答者数	185	266	451	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤ 「TGC しずおか」が来年も開催された場合、参加しますか？

回答者合計では 49.6%と約半数が「参加する」と回答した（前回 57.5%）。「参加は不明だが開催を希望する」は 47.9%（40.8%）、「参加しない」は 2.5%（1.7%）であった。「参加する」と回答した人の割合は、年齢別では 10代が 51.3%と多く、居住地別では静岡市（合計）が 62.9%と多いのが特徴的である（表 13、図 13）。

「参加する」と回答した人と「参加は不明だが開催を希望する」と回答した人を合計した比率は 97.5%（前回 98.3%）であり、来年開催への期待が高いことがうかがえる。

図 13 「TGC しずおか」が来年も開催された場合、参加しますか？（n=591）

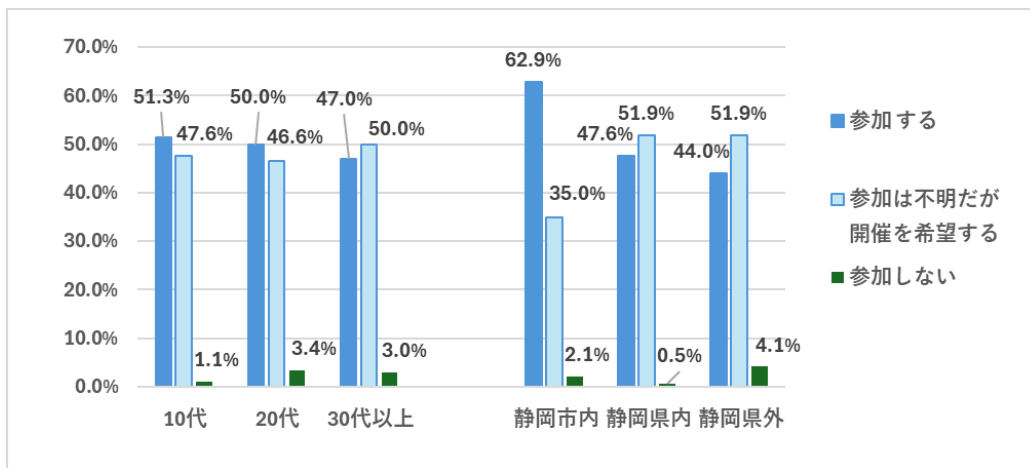


表 13 「TGC しずおか」が来年も開催された場合、参加しますか？（n=591）

来年開催 年齢別 居住地別		回答数				構成比			
		参加する	参加は不明だが開催を希望する	参加しない	合計	参加する	参加は不明だが開催を希望する	参加しない	合計
（年齢別）									
年齢別	10代	96	89	2	187	51.3%	47.6%	1.1%	100.0%
	20代	119	111	8	238	50.0%	46.6%	3.4%	100.0%
	30代以上	78	83	5	166	47.0%	50.0%	3.0%	100.0%
	合計	293	283	15	591	49.6%	47.9%	2.5%	100.0%
(参考)合計 2025		344	244	10	598	57.5%	40.8%	1.7%	100.0%
（居住地別）									
居住地別	静岡市内	88	49	3	140	62.9%	35.0%	2.1%	100.0%
	葵区	31	14	1	46	67.4%	30.4%	2.2%	100.0%
	駿河区	31	12	2	45	68.9%	26.7%	4.4%	100.0%
	清水区	26	23	0	49	53.1%	46.9%	0.0%	100.0%
	静岡県内	88	96	1	185	47.6%	51.9%	0.5%	100.0%
	静岡県外	117	138	11	266	44.0%	51.9%	4.1%	100.0%
	合計	293	283	15	591	49.6%	47.9%	2.5%	100.0%
(参考)合計 2025		344	244	10	598	57.5%	40.8%	1.7%	100.0%

⑥ 前回の「TGC しずおか 2025」（1月11日(土)開催）に参加（または視聴）しましたか？

前回の参加状況では、全体で「会場に来場し、参加した」と回答した人が32.7%（前回37.0%）と、4.3ポイント低くなっている。「オンライン（ABEMA、YouTube等）で視聴した」人は22.7%（20.4%）と少し増え、「いいえ」と回答した人は44.7%（42.6%）と増えている。「参加した」と、「オンラインで視聴した」と回答した人を合わせたリピーターの比率をみると、年齢別では10代が59.4%、20代が57.9%と6割近くであるのに対して30代以上は47.0%と低い。地域別では、「参加した」と回答した人の比率が、静岡市内47.1%、静岡市を除く静岡県内で36.2%、静岡県外で22.6%と、会場に近いほど高い傾向を読み取ることができる。静岡県外の居住者で「オンラインで視聴した」と回答した人の比率が32.7%と高く、今回の来場への動機につながっていると思われる（表14、図14）。

図14 前回の「TGC しずおか 2025」（1月11日(土)開催）に参加（または視聴）しましたか？（n=591）

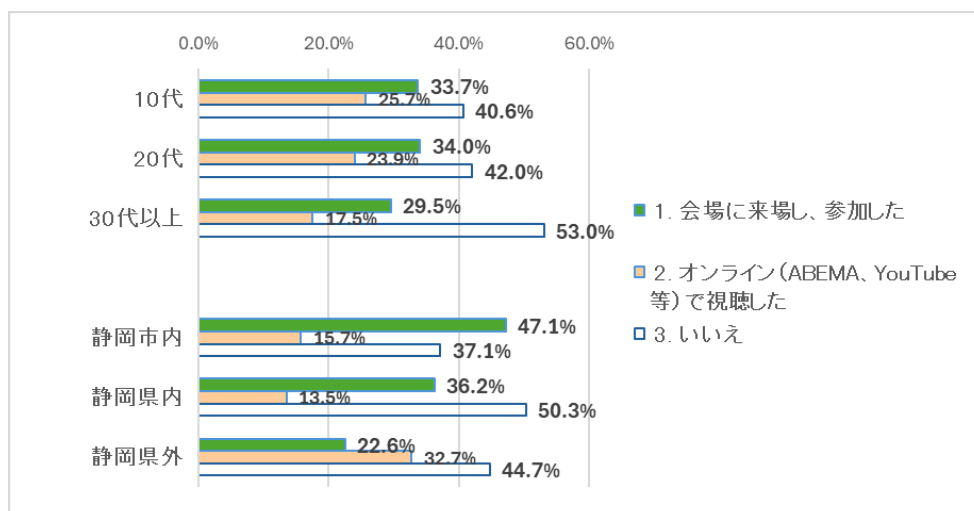


表14 前回の「TGC しずおか 2025」に参加（または視聴）しましたか？（n=591）

年齢・居住地		年齢				居住地				(参考) 合計 2025
		10代	20代	30代以上	合計	静岡市内	静岡県内	静岡県外	合計	
回答	1. 会場に来場し、参加した	63	81	49	193	66	67	60	193	221
	2. オンライン(ABEMA、YouTube等)で視聴した	48	57	29	134	22	25	87	134	122
	3. いいえ	76	100	88	264	52	93	119	264	255
	合計	187	238	166	591	140	185	266	591	598
構成比	1. 会場に来場し、参加した	33.7%	34.0%	29.5%	32.7%	47.1%	36.2%	22.6%	32.7%	37.0%
	2. オンライン(ABEMA、YouTube等)で視聴した	25.7%	23.9%	17.5%	22.7%	15.7%	13.5%	32.7%	22.7%	20.4%
	3. いいえ	40.6%	42.0%	53.0%	44.7%	37.1%	50.3%	44.7%	44.7%	42.6%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑦ 「会場に会場し、参加した」又は「オンラインで視聴した」と回答した方にお聞きします。TGC しずおかへの参加（または視聴）によって SDGs 推進を意識し、行動に移すことができましたか。（例：環境に配慮された服を選ぶようになった等）

TGC しずおか開催の目的の大きな1つがSDGsの推進であることから、前回参加または視聴した人にTGC しずおか 2025 によるSDGs への意識、行動を尋ねた。

「具体的な行動ができ、現在も継続している」と回答した人の比率は、全体で22.9%（前回19.8%）と増加している（表15、図15）。これを前回の参加との関係でみると、「会場に会場し、参加した」人の比率は25.4%（23.5%）、「オンラインで視聴した」人の比率は19.4%（13.1%）であり、オンラインに比べると、臨場感あふれる会場内のSDGsのアピールの効果の高さをうかがうことのできる調査結果となっている。

図15 TGC しずおかへの参加（または視聴）によってSDGs 推進を意識し、行動に移すことができましたか。（n=327）

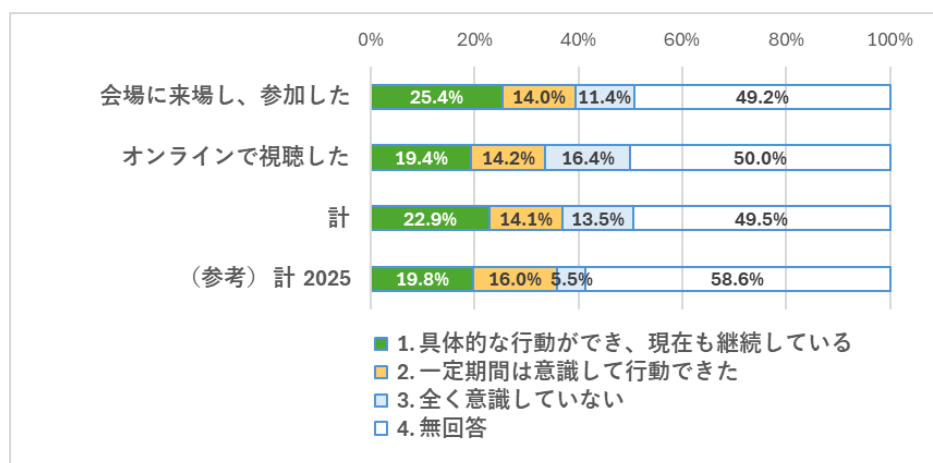


表15 TGC しずおかへの参加（または視聴）によってSDGs 推進を意識し、行動に移すことができましたか。（n=327）

SDGsの行動		前回の参加		回答		
		会場に会場し、参加した	オンラインで視聴した	計	(参考) 計 2025	
回答	1. 具体的な行動ができ、現在も継続している	49	26	75	68	
	2. 一定期間は意識して行動できた	27	19	46	55	
	3. 全く意識していない	22	22	44	19	
	4. 無回答	95	67	162	201	
計		193	134	327	343	
構成比	1. 具体的な行動ができ、現在も継続している	25.4%	19.4%	22.9%	19.8%	
	2. 一定期間は意識して行動できた	14.0%	14.2%	14.1%	16.0%	
	3. 全く意識していない	11.4%	16.4%	13.5%	5.5%	
	4. 無回答	49.2%	50.0%	49.5%	58.6%	
計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

⑧ 来場にあたって、ご自宅から会場までの片道の所要時間をお答えください

会場までの片道所要時間について尋ねた結果は、**図 16**、**表 16**の通りである。

静岡市内居住者は 29 分以内が 37.9%、30 分から 59 分が 47.1%で、あわせて 1 時間以内の人が 85.0%となっている（**表 16**、**図 16**）。

静岡市を除く静岡県内居住者は、最も多いのは 1 時間～2 時間未満で 61.6%であった。30～59 分が 18.4%、2 時間～3 時間未満が 20.0%であった。

静岡県外居住者では 2～3 時間未満が 39.1%、3～4 時間未満が 26.3%となっている。また、来場者の中には 4 時間以上かけて来場する人も 19.6%いるなど、期待の大きさをうかがうことができる。

前回と比較すると、1 時間未満の回答者が 35.7%から 26.6%へ減少する一方で、3 時間以上の回答者が 14.0%から 20.6%へ増加するなど、来場者の居住地の遠距離化、広域化をうかがわせる結果となっている。

図 16 来場にあたって、ご自宅から会場までの片道の所要時間（n=591）

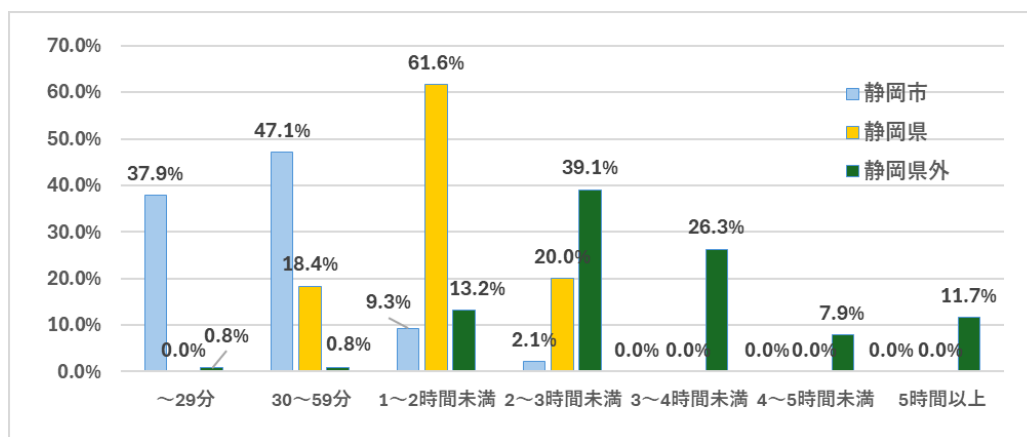


表 16 来場にあたって、ご自宅から会場までの片道の所要時間（n=591）

会場まで	回答(人)				構成比(%)				
	静岡市	静岡県	静岡県外	合計	静岡市	静岡県	静岡県外	合計	(参考) 2025
～29分	53	0	2	55	37.9%	0.0%	0.8%	9.3%	13.5%
30～59分	66	34	2	102	47.1%	18.4%	0.8%	17.3%	22.2%
1～2時間未満	13	114	35	162	9.3%	61.6%	13.2%	27.4%	33.4%
2～3時間未満	3	37	104	144	2.1%	20.0%	39.1%	24.4%	15.6%
3～4時間未満	0	0	70	70	0.0%	0.0%	26.3%	11.8%	9.2%
4～5時間未満	0	0	21	21	0.0%	0.0%	7.9%	3.6%	3.0%
5時間以上	0	0	31	31	0.0%	0.0%	11.7%	5.2%	1.8%
不詳	5	0	1	6	3.6%	0.0%	0.4%	1.0%	1.2%
合計	140	185	266	591	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑨ 会場への片道の交通費をお答えください

交通費への支出を交通手段別にまとめたのが表 17 である。交通費は、経済波及効果の分析に欠かせないデータであるが、記憶があいまいな場合があること、自家用車の燃料費や高速道路料金など、アンケートでは回答が難しい交通費もあるため、経済波及効果の分析の部分で、一人ひとりの居住地から会場までの交通手段別の交通費を別途調べて推計した。

表 17 では、交通手段別に集計した交通費を掲げているが、注 1 に記載したように、少なくない回答者が複数の交通手段を利用して来場しているため、1つの交通費の回答額からそれぞれの交通手段ごとの交通費を知ることはできない。そのため、回答額は主な交通手段の欄に記載する、という方法をとっている。例えば、東京から新幹線と路線バスで会場まで来た場合は、回答額を「新幹線」の欄に記載している。

また、自家用車で参加した人が「0円」と回答した人は、実際には燃料代などがかかっているため、集計から外し、0円以外の有額回答だけを集計している。

集計結果は、新幹線で参加した人の平均交通費は 9,865 円（前回 9,020 円）、JR 在来線・静岡鉄道で参加した人は 2,060 円（1,839 円）、路線バス・高速バスを利用した人は 7,082 円（984 円）であった。この一人あたりの金額が前回と比べて大きくなっているのは、今回多額のタクシー代を使って来場した回答者がいるためである。

自家用車を利用した人は 2,013 円（2,835 円）であったが、主に高速道路料金など有料道路代だと思われる。飛行機を利用した人は 5 人であった。

表 17 会場への片道交通費（n=591）

交通手段 交通費(注1) 記号・算式	交通手段 回答数 (複数回答) A	交通費 有額回答数 B	交通費 回答総額 (円) C	1人あたり平 均片道交通 費(円) D=C÷B	(参考)平均 片道交通費 (円) 2025
1 新幹線	201	189	1,864,578	9,865	9,020
2.JR・静岡鉄道	112	111	228,630	2,060	1,839
3.路線バス・高速バス(注2)	76	26	184,130	7,082	984
4.観光バス	9	3	10,800	3,600	2,800
5.タクシー(注2)	51	8	60,900	7,613	4,000
6.自家用車(注3)	193	96	193,223	2,013	2,835
7.バイク・原付	1
8.自転車	21	—	—	—	—
9.飛行機	5	5	56,000	11,200	33,333
10.徒歩のみ	11	—	—	—	—
11.その他(送迎等)	1
回答数計／平均	681	438	2,598,261	5,932	4,250
回答者数	591	—	—	—	598

(注1) 複数の交通手段の回答者の交通費は、主要な交通手段と思われるものに記入した。

交通手段有効回答数は、どの交通手段についても交通費を「0」と回答した人を外している。

(注2) 路線バス・高速バスの回答者とタクシーの交通費は、他の交通手段を用いない回答だけを集計している。

(注3) 自家用車の交通費の回答には、有料道路代、燃料代が含まれているが、経済波及効果の計算では、正確を期すために別途計算した。

⑩ 来場に当たって、宿泊をしましたか。宿泊数、宿泊費も教えてください

参加者のうち宿泊した人の割合は 15.7%と前回（11.2%）に比べて多くなった。1人あたり平均宿泊費 10,250 円（9,118 円）も増加し、総宿泊費は 1,860 万円にのぼった。前回「任意」とした回答を「必須」とした影響で無回答が減った影響もあると思われる。

表 18 宿泊の有無、宿泊地、宿泊費（n=591）

■ 回答数

宿泊 居住地	日帰り 者数	静岡市内宿泊		静岡県内宿泊		静岡県外宿泊		合計	
		宿泊者 数(人)	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数(人)	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数(人)	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数(注1)	日帰り+ 宿泊者計
静岡市	136	3	40,746	4	59,276	2	30,000	4	140
静岡県内	177	3	31,492	4	37,828	4	32,929	8	185
静岡県外	185	66	669,230	27	236,832	21	235,153	81	266
合計	498	72	741,467	35	333,936	27	298,082	93	591

■ 構成比

静岡市	97.1%	2.1%	-	2.9%	-	1.4%	-	2.9%	100.0%
静岡県内	95.7%	1.6%	-	2.2%	-	2.2%	-	4.3%	100.0%
静岡県外	69.5%	24.8%	-	10.2%	-	7.9%	-	30.5%	100.0%
合計	84.3%	12.2%	-	5.9%	-	4.6%	-	15.7%	100.0%
前回 2025	88.8%	9.5%	-	1.2%	-	0.5%	-	11.2%	100.0%

■ 1人平均宿泊費（円）

（単位：円）

静岡市	-	-	13,582	-	14,819	-	15,000	-	14,447
静岡県内	-	-	10,497	-	9,457	-	8,232	-	9,295
静岡県外	-	-	10,140	-	8,772	-	11,198	-	10,011
合計	-	-	10,298	-	9,541	-	11,040	-	10,250
前回 2025	-	-	8,721	-	11,957	-	10,033	-	9,118

■ 日帰り・宿泊者数の推計値（来場者総数・人）

宿泊 居住地	日帰り 者数	静岡市内宿泊		静岡県内宿泊		静岡県外宿泊		合計	
		宿泊者 数(人)	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数(人)	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数(人)	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数(注1)	日帰り+ 宿泊者計
静岡市	1,841	41	-	54	-	27	-	54	1,895
静岡県内	2,396	41	-	54	-	54	-	108	2,504
静岡県外	2,504	893	-	365	-	284	-	1,096	3,601
合計	6,741	975	-	474	-	365	-	1,259	8,000
前回 2025	7,086	761	-	93	-	40	-	894	7,980

■ 来場者の宿泊費総額－宿泊地別推計（100万円）

宿泊 居住地	日帰り 者数	静岡市内宿泊		静岡県内宿泊		静岡県外宿泊		合計	
		宿泊者 数(人)	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数(人)	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数(人)	宿泊費総 額(円)	宿泊者 数(注1)	日帰り+ 宿泊者計
静岡市	-	-	0.6	-	0.8	-	0.4	1.8	1.8
静岡県内	-	-	0.4	-	0.5	-	0.4	1.4	1.4
静岡県外	-	-	9.1	-	3.2	-	3.2	15.4	15.4
合計	-	-	10.0	-	4.5	-	4.0	18.6	18.6
前回 2025	-	-	6.6	-	1.1	-	0.4	8.2	8.2

（注1）1人が例えば静岡市と静岡市以外の県内の2カ所に宿泊するケースがあるが、この欄は宿泊した実人数を計上している。

（注2）四捨五入の関係で、内訳を合計した結果が、合計値の表記と一致しない場合がある。

⑪ 来場にあたって使った金額

交通費を除く参加者の支出については、表19のとおりである。総額は1億1,090万円（前回4,040万円）から大きく増加している。増加した理由は、前回は回答を「任意」としていたのを今回「必須」としたため、無回答が減り有効回答が増えたことが大きい。

表19 来場者の支出額（n=591）

支出地域	回答	回答者数(人) (注1)	支出した人の比率	回答額計(円)	回答者1人あたり支出額(円)	全参加者中の支出者数(人)	全参加者推定支出額(100万円)	(参考)全参加者の推定支出額(100万円)	
	記号・算式	A	対回答者591人比	B	C=B/A	D=A/591人×8,000人	E=C×D	2025年	2024年
宿泊費	総数	134	22.7%	1,373,486	10,250	1,814	18.6	8.0	9.5
	静岡市内	72	12.2%	741,467	10,298	975	10.0	7.0	7.3
	静岡県内	35	5.9%	333,936	9,541	474	4.5	0.7	0.6
	静岡県外	27	4.6%	298,082	11,040	365	4.0	0.3	1.6
飲食費	総数	456	77.2%	902,026	1,978	6,173	12.2	3.8	23.8
	静岡市内	357	60.4%	677,778	1,899	4,832	9.2	3.1	23.0
	静岡県内	67	11.3%	144,558	2,158	907	2.0	0.6	0.7
	静岡県外	32	5.4%	79,690	2,490	433	1.1	0.1	0.1
洋服・帽子	総数	286	48.4%	1,823,283	6,375	3,871	24.7	7.4	14.2
	静岡市内	213	36.0%	1,348,033	6,329	2,883	18.2	6.3	6.6
	静岡県内	58	9.8%	355,250	6,125	785	4.8	1.1	1.3
	静岡県外	15	2.5%	120,000	8,000	203	1.6	0.0	6.4
ズシクバユッ	総数	147	24.9%	1,070,339	7,281	1,990	14.5	7.2	5.3
	静岡市内	104	17.6%	704,878	6,778	1,408	9.5	5.9	1.8
	静岡県内	28	4.7%	262,769	9,385	379	3.6	1.3	1.0
	静岡県外	15	2.5%	102,692	6,846	203	1.4	0.0	2.4
サアクセ	総数	298	50.4%	572,338	1,921	4,034	7.7	2.5	2.5
	静岡市内	247	41.8%	438,400	1,775	3,343	5.9	2.0	1.5
	静岡県内	19	3.2%	56,001	2,947	257	0.8	0.5	0.3
	静岡県外	32	5.4%	77,937	2,436	433	1.1	0.0	0.8
化粧品	総数	154	26.1%	489,260	3,177	2,085	6.6	3.3	7.7
	静岡市内	126	21.3%	290,824	2,308	1,706	3.9	2.9	3.3
	静岡県内	19	3.2%	121,935	6,418	257	1.7	0.5	0.4
	静岡県外	9	1.5%	76,500	8,500	122	1.0	0.0	4.0
グ会場ズ内	総数	63	10.7%	169,368	2,688	853	2.3	0.6	2.8
	静岡市内	63	10.7%	169,368	2,688	853	2.3	0.6	2.8
	静岡県内	-	-	-	-	-	-	-	0.0
	静岡県外	-	-	-	-	-	-	-	0.0
お土産	総数	273	46.2%	506,176	1,854	3,695	6.9	1.7	5.3
	静岡市内	158	26.7%	302,704	1,916	2,139	4.1	1.4	5.1
	静岡県内	107	18.1%	175,626	1,641	1,448	2.4	0.3	0.2
	静岡県外	8	1.4%	27,846	3,481	108	0.4	0.0	0.0
美容費	総数	161	27.2%	1,284,065	7,976	2,179	17.4	5.8	9.6
	静岡市内	115	19.5%	762,809	6,633	1,557	10.3	4.7	3.4
	静岡県内	22	3.7%	210,255	9,557	298	2.8	1.0	1.5
	静岡県外	24	4.1%	311,001	12,958	325	4.2	0.0	4.8
総合計	総数(延べ)	1,972	333.7%	8,190,340	4,153	26,694	110.9	40.4	80.7
	静岡市内	1,455	246.2%	5,436,261	3,736	19,695	73.6	34.0	54.7
	静岡県内	355	60.1%	1,660,330	4,677	4,805	22.5	5.9	6.0
	静岡県外	162	27.4%	1,093,749	6,752	2,193	14.8	0.4	20.1

(注1) 1人が複数の費目を支出した場合や、1人が異なる地域で宿泊した場合もそれぞれ1人とカウントしている。

(注2) 四捨五入の関係で、内訳を足した値が合計に表示されている値と一致しない場合がある。

なお、表中の支出費目を支出場所である静岡市内、静岡市以外の静岡県内、静岡県外の地域ごとに集計しているが、これは地域別の経済波及効果を求めるために、参加者の支出がどの地域で行われたかを把握する必要があるためである。

表19の中の「宿泊費」について、表記の仕方で前掲の表18との異同があるため、次の点に留意していただきたい。

- ① 左欄（表側）に静岡市内、静岡県内、静岡県外とあるのは宿泊をした「支出地域」で、本報告書20ページの表18の「■回答数」の欄の表側で示した宿泊者の「居住地」とは異なる。
- ② 表19の「回答者数（人）」の支出地域別集計（静岡市内72人、静岡県内35人、静岡県外27人）は、20ページの表18の「■回答数」の合計欄を横に掲げた人数と同じであり一致する。
- ③ 表19の「回答者1人あたり支出額（円）」も、20ページの表18の「1人平均宿泊費」欄の合計を横に記載している金額と一致している。

3. 地域経済波及効果の分析

(1) 経済波及効果の分析方法

項目	解説
分析対象地域	○静岡市 ○静岡県
最終需要	○経済波及効果の起点となるお金の支出 ○本調査では、次の支出を取り上げている。 ① 来場者の支出 ② 来場者の交通費（自動車の燃料代を含む） ③ 主催者の運営経費
基礎データとしての産業連関表の特徴	○令和2年静岡市産業連関表（静岡市）を作成し、これをもとに、令和2年産業連関表（静岡県）、令和2年全国産業連関表（国：総務省統計局）の3地域の産業連関表を連結させた「令和2年静岡市-静岡県-全国3地域間産業連関表」を作成し用いた。（次ページ図18参照） ○各地域の経済波及効果を計測するために、個別の産業連関表を用いるのではなく、3地域の地域間産業連関表を作成して分析したのは、間接効果の地域間の「跳ね返り効果」を分析できるためであり、高い精度が保障されるからである。
理論モデルの特徴	○家計内生化モデルを使用（次ページ理論モデル参照）。波及効果の結果、生産誘発に伴って生じる雇用者所得と家計消費の誘発が、さらなる生産誘発をもたらすプロセスを収束するまで把握できる特徴がある。（通常は間接二次効果として1回だけ計算する）
経済波及効果	○以下の効果を算出した。 ① 生産誘発効果（企業・産業への効果） ② 付加価値誘発効果 ③ 雇用効果（家計への効果） ④ 税収効果（市税、県税の増収など行政への効果） ⑤ 定住人口効果（地域社会への効果） ※雇用の誘発による家族を含む定住人口が増える効果

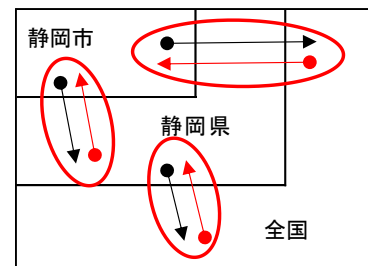
図17 静岡市－静岡県－全国3地域間産業連関表で把握する地域間経済取引

矢印は財貨サービスの地域間の流れを表す。

特長

地域外へ漏出した波及効果の「跳ね返り効果」(赤枠内)を算出(地域内表＝単独表では、赤枠で表した地域間の波及効果を捕捉することができない)。

最終需要1(来場者の消費支出)は1人あたり支出額に来場者数(8,000人)に乗じて求めた。



(理論モデル式)

$$\begin{bmatrix} \Delta X \\ \Delta V \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} I - TA & -Tc \\ -v & I \end{bmatrix} \begin{bmatrix} T\Delta F_d + \Delta E \\ 0 \end{bmatrix}$$

記号注 ΔX ：生産誘発額 ΔV ：誘発付加価値額 I ：単位行列
 T ：交易係数（地域別移出または移入配分率） A ：投入係数
 ΔF_d ：地域内最終需要の変化 ΔE ：移輸出の変化

(基礎データ)

今回は、5年ごとに作成される産業連関表の最新版である令和2年（2020年）産業連関表が、国（総務省統計局）で2024年6月に、静岡県（企画部統計活用課）で2026年1月に公表されたことを受け、これらに準拠した静岡市の令和2年産業連関表を新たに作成し、静岡県、全国の令和2年の3地域の産業連関表を連結させた「令和2年（2020年）静岡市-静岡県-全国3地域間産業連関表」を構築して分析にあたった。

図18 静岡市—静岡県—全国3地域間産業連関表のしくみ

投入		産出		中間需要						最終需要						生産額 合計		
				静岡市		静岡県		全国		静岡市		静岡県		全国			輸出	輸入
				産業 A	産業 B	産業 A	産業 B	産業 A	産業 B	消費	投資	消費	投資	消費	投資			
中間 投入	静岡市	産業A																
		産業B																
	静岡県	産業A																
		産業B																
	全国	産業A																
		産業B																
粗付加価値																		
生産額合計																		

→ヨコ行は財貨サービスの販路先を(産出)を示す
↓タテ列は財貨サービスの購入元(投入)を示す

(2) 経済波及効果の起点となる最終需要

地域経済波及効果の起点となるのが最終需要であるが、TGC しずおか 2026 の最終需要は、次の2つが柱となる。

- ① 最終需要1 来場者の支出（交通費、宿泊費、飲食費、買い物、美容など）
- ② 最終需要2 主催者の運営経費

うち、①の来場者の支出は、開催当日、会場内で来場者に実施したアンケート調査結果をもとに1人あたり費目別平均支出額を得た。交通費は、燃料代など回答者が正確に回答できない品目もあるため、回答者の居住地と利用交通手段の回答をもとに、一人ひとりの交通費を算定した。鉄道や自家用車の燃料代や有料道路代などは、走行距離で静岡市、静岡市以外の静岡県、全国の各地に落ちたお金を按分している。

① 最終需要 1 - 来場者の支出（宿泊・飲食・買い物、交通費）

（ア）宿泊・飲食・買い物の推計

経済波及効果の起点となる来場者の支出（宿泊・飲食・買い物）は、21 ページの表 19 とした。

（イ）交通費の推計

交通費は、19 ページの表 17 をベースとしている。ただし、自家用車による来場者の経費については、使用した燃料代や有料高速道路料金をアンケート調査で正確に把握することが困難なため、次に述べる方法で別途推計している。

また経済波及効果の算出は、それぞれの交通機関が輸送サービスを提供した地域別に生産誘発額を把握するため、生産誘発効果の起点となる来場者が支払った電車賃や使用した燃料費などを、走行距離に応じて支出地別（静岡市内、静岡市を除く静岡県内、静岡県外）に配分する必要がある（お金が支払われた場所で記録する現金主義ではなく発生主義と言われる）。旅客を運ぶ輸送サービスがそれぞれの地域内で生産されるという意味である。そのため、表 17 をベースとしながら、支出地別の配分をここで新たに行っている。

具体的には、以下の方法で交通費の支出地別配分を行った。

1. 交通手段別の利用者数と交通費

利用者数は、本報告書 7 ページの表 6 と図 6 に掲げた有料の交通手段別利用者数を用いた。また交通費については、燃料代や有料道路代などアンケートでの回答が難しい自家用車を除いて、原則として、19 ページの表 17 で掲げた交通費の回答結果を用いた。

2. 支出地別配分とその方法

支出地は、経済波及効果の分析結果を表章する関係で、静岡市、静岡市を除く静岡県内、静岡県外の三区分とした。

具体的な支出地別配分は、アンケート調査の回答の平均値を 1 人あたり運賃とし、支出地内の走行距離で按分した。走行距離は、交通手段別に次の方法を用いて計測した。

① 新幹線、JR/静岡鉄道

- ・静岡市内居住者の運賃・・・支出地は静岡市内とした。
- ・静岡県内居住者の運賃・・・居住地の最寄り駅と静岡駅を乗降駅として回答者一人ひとりの運賃と走行距離を、ネットの運賃検索サイトで求めた。その上でこの一人ひとりの運賃を、静岡市内と静岡市以外の静岡県内を走行する距離の比率で按分した。

静岡市の東市域から静岡駅までの距離・・・JR 富士川駅（富士市）と静岡駅及び JR 新蒲原駅（静岡市）と静岡駅との距離を合計した距離に 1/2 を乗じて東方面の静岡市内走行距離とした。

静岡市の西市域から静岡市までの距離・・・JR 焼津駅（焼津市）と静岡駅及び JR 用宗駅（静岡市）と静岡駅との距離を合計した距離に 1/2 を乗じて西方面の静岡市内走行距離とした。

静岡市以外の静岡県内走行距離は、一人ひとりの回答者の最寄り JR 駅と静岡駅の距離から、上記静岡市内を走行する距離を差し引いて求めた。

- ・ 静岡県外居住者の運賃・・・居住地の最寄り駅と静岡駅を乗降駅として回答者一人ひとりの運賃と走行距離を、ネットの運賃検索サイトで求めた。その上でこの一人ひとりの運賃を、静岡市内、静岡市以外の静岡県内、静岡県を除く全国の3地域内を走行する距離の比率で按分した。

静岡市内走行距離・・・上述

静岡市以外の静岡県内走行距離・・・

東方面からの来場者については、静岡県と神奈川県境の JR 駅である JR 湯河原駅と JR 熱海駅のそれぞれから JR 静岡駅までの距離を合計して 1/2 を乗じ、これから上述した東側の静岡市域の距離を差し引いた距離を、東方面から来場する人が静岡市以外の静岡県内を走行する距離とした。

西方面からの来場者については、静岡県と愛知県境の JR 駅である JR 二川駅と JR 新所原駅のそれぞれから JR 静岡駅までの距離を合計して 1/2 を乗じ、これから上述した東側の静岡市域の距離を差し引いた距離を、西方面から来場する人が静岡市以外の静岡県内を走行する距離とした。

② 自家用車、高速バス

自家用車で来場した人の交通費は、ガソリン代と有料道路料金の2つから構成される。いずれも上述したように購入地ではなく消費地で地域へ配分するため、鉄道と同じように走行距離で按分している。走行距離は次の方法を用いて計測した。

- ・ 静岡市内居住者の走行距離・・・静岡市役所から会場まで（ツインメッセ静岡北館）の距離 2.9km を用いた。
- ・ 静岡県内居住者の走行距離・・・東方面と西方面いずれも回答者の居住地の役所庁舎から会場までの距離をベースとしている。静岡市内、静岡市を除く静岡県内の走行距離は、以下の方法を採用した。

静岡市内走行距離・・・

東方面の市の境界域から会場までの距離は、JR 富士川駅（富士市）から会場までの距離（37.8km）と JR 新蒲原駅（静岡市）から会場までの距離（28.1km）を足して2で割った距離（32.95km）とした。

西方面の市の境界域から会場までの距離は、宇津ノ谷峠（静岡市）から会場までの距離（12.6km）とした。

静岡市を除く静岡県内走行距離・・・東方面、西方面とも、回答者の居住地の役所庁舎から会場までの距離を計測し、それから上記の静岡市域内の走行距離を差し引いて求めた。

- ・ 静岡県外居住者の走行距離・・・回答者の居住地の都府県庁から会場までの距離をまず

計測し、これを地域配分のベースとした。静岡市域内は上述の距離を利用した。静岡県内を走行する距離については、東方面と西方面について以下のように設定した。

東方面は、JR 熱海駅（静岡県）から会場のツインメッセ静岡までの距離（75.6km）と、JR 湯河原駅から会場までの距離（81.1km）を足して2で割った距離（78.35km）から静岡市域を走行する距離を差し引いた距離を、静岡市を除く静岡県内走行距離とした。静岡市内、静岡市を除く静岡県内を除く他の都府県（全国）内の走行距離は、ベースとした自宅のある都府県庁から上記の静岡市内、静岡市を除く静岡県内を走行する距離を差し引いて求めている。

西方面は、愛知県内で静岡県に最も近い JR 駅である二川駅と会場までの距離（115.8km）と、静岡県内で愛知県に最も近い新所原駅から会場までの距離（111.8km）を合計して1/2を乗じた距離（113.8km）を静岡県内の走行距離とした。回答者の自宅のある都府県庁から会場までの距離からこの静岡県内の走行距離を差し引いた距離を、静岡県内を除く他の都府県（全国）内の走行距離とした。静岡市内及び静岡市を除く静岡県内の走行距離については、上述した距離を用いている。

燃料代の算出にあたっては、ガソリン価格について、資源エネルギー庁「石油製品価格調査結果」（2026年1月14日時点調査）の全国平均価格（154.5円/ℓ）を利用した。有料道路代についても、詳細は省くが燃料代と同様に居住地から会場までの有料道路代を走行距離で按分している。なお、走行距離や有料道路料金は、自動車ルート検索サイト（NAVITIME）を用い、計測の日時を開催日当日の日時に設定して計測した。

③ タクシー・路線バス

タクシー利用者の回答からは、どの場所でタクシーを利用したかが分からないため、分析では一律に JR 静岡駅から会場までの料金（片道 1,280 円）とし、同行者の回答をもとに人数で除して1人あたりの料金を求めた。タクシーの利用料金は全国タクシー協会の料金検索サイトを利用した。

交通費の算出にあたっては、自転車、徒歩などによる来場者の費用は算出していない。

バス利用との回答も、どこでバスを利用したかが分からないため、分析では、一律に JR 静岡駅から会場のツインメッセ静岡までの路線バスの料金（片道 250 円）とした。

④ 飛行機

飛行機の料金の地域別配分については、産業連関表の原則に基づいて発着空港のある都道府県（静岡県と居住地の都道府県）にそれぞれ1/2ずつを配分した。

以上をまとめたのが、次の表 20 である。

表 20 交通手段別・交通費の支出地別にみた交通費の算出結果

1. 静岡市居住者		記号 算式	新幹線	JR在来 線・静 岡鉄道	路線バ ス・高 速バス	観光バ ス	タク シー	自家用 車	バイク・ 原付	自転車	飛行機	徒歩の み+不 明	利用交 通手段 計	
回答数(人)		A	0	12	12	0	5	84	1	15	0	11	140	
対回答者数(140人)比			0.0%	8.6%	8.6%	0.0%	3.6%	60.0%	0.7%	10.7%	0.0%	7.9%	100.0%	
同乗者数(人)		B	-	-	-	-	3	2.5	-	-	-	-	...	
推定利用 者数(人)		A÷回答者数 591×8,000人	E	0	162	162	0	68	1,137	14	203	0	149	1,895
1人あたり 片道支出 額(円)		計	C	0	480	320	0	927	78	65	0	0	-	149
		静岡市内	D	0	480	320	0	927	78	65	-	0	-	149
		静岡県内		0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0
		静岡県外		0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0
推定支出 額(往復) (100万円)		計	F=D/ B×2 ×E	0.0	0.2	0.1	0.0	0.1	0.2	0.0	-	0.0	-	0.6
		静岡市内		0.0	0.2	0.1	0.0	0.1	0.2	0.0	-	0.0	-	0.6
		静岡県内		0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	
		静岡県外		0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	

2. 静岡市以外の静岡 県内居住者		記号 算式	新幹線	JR在来 線・静 岡鉄道	路線バ ス	高速バ ス	タク シー	自家用 車	バイク・ 原付	自転車	飛行機	徒歩の み+不 明	利用交 通手段 計	
回答数(人)		A	17	77	26	4	16	84	0	2	0	1	227	
対回答者数(185人)比			9.2%	41.6%	14.1%	2.2%	8.6%	45.4%	0.0%	1.1%	0.0%	0.5%	122.7%	
同乗者数(人)		B	-	-	-	-	3	2.5	-	-	-	-	...	
推定利用 者数(人)		A÷回答者数 591×8,000人	E	230	1,042	352	54	217	1,137	0	27	0	14	3,073
1人あたり 片道支出 額(円)		計	C	2,203	861	250	2347	927	1,722	0	0	0	1,229	
		静岡市内	D	544	276	250	501	927	875	0	-	0	-	561
		静岡県内		1,659	585	0	1846	0	847	0	-	0	-	669
		静岡県外		0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	
推定支出 額(往復) (100万円)		計	F=D/ B×2 ×E	1.0	1.8	0.2	0.3	0.4	3.9	0.0	-	0.0	0.0	7.6
		静岡市内		0.3	0.6	0.2	0.1	0.4	2.0	0.0	-	0	0	3.4
		静岡県内		0.8	1.2	0.0	0.2	0.0	1.9	0.0	-	0	-	4.1
		静岡県外		0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	

3. 静岡県外の居住者		記号 算式	新幹線	JR在来 線・静 岡鉄道	路線バ ス	高速バ ス	タク シー	自家用 車	バイク・ 原付	自転車	飛行機	徒歩の み+不 明	利用交 通手段 計	
回答者数(人)		A	184	23	38	5	30	25	0	4	5	0	314	
対回答者数(266人)比			69.2%	8.6%	14.3%	1.9%	11.3%	9.4%	0.0%	1.5%	1.9%	0.0%	118.0%	
同乗者数(人)		B	-	-	-	-	3	2.5	-	-	-	-	...	
推定利用 者数(人)		A÷回答者数 591×8,000人	E	2,491	311	514	68	406	338	0	54	68	0	4,250
1人あたり 片道支出 額(円)		計	C	7,535	3,378	210	3,410	1,390	3,564	0	-	52,150	-	5,820
		静岡市内	D	747	423	210	334	1,390	474	0	-	0	-	670
		静岡県内		1,985	1,042	...	1,208	...	1,442	0	-	26075	-	1,789
		静岡県外		4,803	1,914	...	1,868	...	1,648	0	-	26075	-	3,361
推定支出 額(往復) (100万円)		計	F=D/ B×2 ×E	37.5	0.9	0.2	0.2	1.1	2.4	0.0	-	7.1	-	49.5
		静岡市内		3.7	0.3	0.2	0.0	1.1	0.3	0.0	-	0	-	5.7
		静岡県内		9.9	0.6	...	0.2	...	1.0	0.0	-	3.5	-	15.2
		静岡県外		23.9	0	...	0	...	1.1	0	-	3.5	-	28.6

(注1) 四捨五入の関係で、内訳を足した値が合計値と一致しない場合がある。

(注2) 自家用車の交通費は、燃料代と有料道路料金の合計である。

(注3) 交通費の支出地については、居住地のある都道府県庁か市町村庁舎、最寄り駅より会場までの走行距離により交通費を按分して求めた。

(注4) 航空運賃は、居住地の最寄り空港からの正規料金の1/2(割引)とし、産業連関表の原則により発着地にそれぞれ1/2ずつを計上した。

② 最終需要2－主催者の運営支出

経済波及効果の起点となる第2の柱として、開催に係る主催者の運営支出がある。そのうち、静岡市内、静岡県内（静岡市を含む）における運営支出額は、それぞれ2,825万円（前回4,160万円）、1,925万円（2,170万円）と見込まれる。静岡県外も含めた総額は、個別企業の売上額にかかわるため略し、のちの表中では×として秘匿した。

③ 最終需要のまとめ

以上をまとめると、経済波及効果の起点となる最終需要の額と地域別支出額は、表21のとおりとなる。「2.主催者の運営経費」は個別企業の売上となるため、×で関連項目を秘匿扱いとしている。費目別では「1.来場者の支出」が1億6,850万円（前回8,520万円）で、その内訳は「(1) 宿泊費・飲食費・買い物など」が1億1,090万円（4,040万円）、「(2) 交通費」が5,760万円（4,490万円）であった。

来場者の買い物が今回大きく増加しているのは、「任意」としていた回答を今回「必須」としたため。無回答が減って有額回答数が増加したことが大きいと思われる。

交通費の地域別支出額が前回と比べて変わっているのは、今回回答者一人ひとりの交通費の地域配分の計算方法を変更したことによる。地域別では静岡市が1億250万円（前回8,210万円）、静岡市を含む静岡県が1億5,170万円（1億2,880万円）であった。静岡市の「(1) 宿泊費・飲食費・買い物など」が、前回の3,400万円から今回7,360万円にほぼ倍増したことなどが静岡県内の最終需要の増加の要因となっている。

表21 最終需要のまとめ(費目別・支出地別)

(単位:100万円)

最終需要	支出先地域				
	静岡市内	静岡県内	静岡市を含む静岡県内	静岡県以外の全国	合計
1. 来場者の支出	74.2	30.0	104.2	64.3	168.5
(1) 宿泊費・飲食費・買い物など	73.6	22.5	96.1	14.8	110.9
(2) 交通費	0.6	7.6	8.1	49.5	57.6
2. 主催者の運営支出	28.3	19.3	47.5	×	×
合計	102.5	49.3	151.7	×	×

(参考) 前回の開催の最終需要

(単位:100万円)

最終需要	支出先地域				
	静岡市内	静岡県内	静岡市を含む静岡県内	静岡県以外の全国	合計
1. 来場者の支出	40.4	25.0	65.5	19.8	85.2
(1) 宿泊費・飲食費・買い物など	34.0	5.9	40.0	0.4	40.4
(2) 交通費	6.4	19.1	25.5	19.3	44.9
2. 主催者の運営支出	41.6	21.7	63.3	×	×
合計	82.1	46.7	128.8	×	×

(3) 経済波及効果の分析結果

① 企業・産業への経済波及効果（生産誘発効果）

TGC しずおか 2026 の経済波及効果の総額は、表 22 のとおり全国で 8 億 3,990 万円であった（前回 6 億 9,790 万円、+20.3%）。地域別では、静岡市内が 2 億 1,500 万円（1 億 6,190 万円、+32.8%）、静岡市を除く静岡県内が 1 億 3,320 万円（9,440 万円、+41.1%）、静岡市を含む静岡県内では 3 億 4,820 万円（2 億 5,630 万円、+35.9%）、静岡県を除く全国が 4 億 9,170 万円（4 億 4,150 万円、+11.4%）であった。

特徴として、経済波及効果の起点となる最終需要の額が、静岡市、静岡市を除く静岡県内、静岡県を除く全国でいずれも増加していることが挙げられる。

- ・ 静岡市・・・1 億 1,150 万円（前回 8,210 万円）、増加額 2,940 万円（+35.8%）
- ・ 静岡県・・・6,100 万円（前回 4,670 万円）、増加額 1,430 万円（+30.6%）

経済波及効果の金額が、各項目とも増加している理由は、前述したように、経済波及効果の起点の一つとなる買い物や飲食、宿泊などへの支出の回答を、前回は「任意」としていたのを今回は「必須」としたため、無回答が減少して有効回答が増えたことが大きい。

表 22 では、「最終需要」は来場者の支出と主催者の運営経費を、「直接効果」は最終需要のうち地域に直接落ちたお金を、「間接効果」は直接効果によって誘発される原材料や事業者の家計消費によって誘発される生産誘発効果を、それぞれ意味している。間接効果についてはサプライチェーンを通じて、どの地域からの波及効果なのかを表した。

表 22 経済波及効果のまとめ

(100万円)

地域 経済波及効果	説明	2026年					(参考) 2025年		
		静岡県			静岡県を除く 全国	静岡県を含む 全国	静岡県		全国 合計
		静岡市	静岡市を除く 静岡県	静岡県 合計			静岡市	静岡県 合計	
記号・算式		A	B	C=A+B	D	E=C+D			
最終需要	来場者の支出・運営経費	111.5	61.0	172.6	144.6	X	82.1	128.8	X
直接効果 a	地域に直接落ちるお金	111.5	57.9	169.3	139.3	308.6	81.8	128.5	272.6
間接効果 b	原材料などによる波及	103.5	75.3	178.8	352.5	531.3	80.1	127.8	425.3
うち地域内	自地域内の波及	99.9	52.9	152.8	216.8	369.6	74.1	115.9	310.7
" 静岡市より	静岡市から県と全国へ波及	-	19.9	19.9	89.2	109.1	-	8.7	66.7
" 静岡県より	県から静岡市と全国へ波及	3.2	-	3.2	46.5	49.7	5.5	-	48.0
" 全国より	全国から静岡市と県へ波及	0.4	2.5	3.0	-	3.0	0.5	3.2	-
経済波及効果 c	生産誘発効果の合計	215.0	133.2	348.2	491.7	839.9	161.9	256.3	697.9
※波及倍率 c/a	直接効果に対する倍率	1.93	2.30	2.06	3.53	2.72	1.98	1.99	2.56
付加価値誘発効果	家計/企業の所得の源泉	111.2	68.7	180.0	233.4	413.4	91.2	145.6	393.2
雇用効果(人)	生産に伴う就業者の誘発	24	14	38	53	91	20	29	80
税収効果	所得や消費増による増収	4.6	...	9.7	3.7	7.4	...
定住人口効果(人)	雇用効果による人口増加	42	...	73	35	56	...

(注) 記号「…」は存在しているが、推計していないことを表す。「-」は存在していないことを表す。

表23は、紙面の関係で、経済波及効果の大きかった上位40位までを静岡県内合計を基準にみたものである。第1位の「商業」の波及効果(5,170万円)は売上額から仕入れ額を引いた商業マージン、いわゆる粗利(あたり)である。上位には、その他对事業所サービス(第2位、3,700万円)、鉄道輸送(第3位、2,340万円)、飲食サービス(第4位、1,570万円)、宿泊業(第5位、1,510万円)などがきている。

経済波及効果は、サプライチェーンの遡及や就業者の家計消費により多くの産業に波及していて、波及効果が無かった産業の数は108産業部門のうち8つにとどまっている。

表23 産業別にみた経済波及効果(静岡県内合計を基準に上位40位)

順位	産業別経済波及効果 (108部門)	(100万円)				(構成比)		
		(生産誘発額)				静岡県内	静岡市を 除く 静岡県内	静岡市を 含む 静岡県
		静岡県内	静岡市を 除く 静岡県内	静岡市を 含む 静岡県	(参考)静岡 県合計 2025			
	合計	215.0	133.2	348.2	237.5	100.0%	100.0%	100.0%
1	商業	37.4	14.3	51.7	15.9	17.4%	10.8%	14.8%
2	その他の対事業所サービス	15.5	21.5	37.0	61.4	7.2%	16.1%	10.6%
3	鉄道輸送	9.6	13.8	23.4	19.2	4.5%	10.4%	6.7%
4	飲食サービス	12.2	3.5	15.7	9.4	5.7%	2.6%	4.5%
5	宿泊業	10.5	4.6	15.1	8.4	4.9%	3.5%	4.3%
6	洗濯・理容・美容・浴場業	11.0	3.8	14.8	7.2	5.1%	2.9%	4.3%
7	食料品	8.6	4.6	13.2	7.7	4.0%	3.5%	3.8%
8	金融・保険	8.1	4.4	12.6	8.7	3.8%	3.3%	3.6%
9	衣服・その他の繊維既製品	8.4	2.1	10.4	8.5	3.9%	1.5%	3.0%
10	その他の対個人サービス	5.2	5.0	10.2	1.9	2.4%	3.7%	2.9%
11	広告	4.7	2.9	7.6	10.4	2.2%	2.2%	2.2%
12	なめし革・革製品・毛皮	5.6	1.3	6.8	7.6	2.6%	1.0%	2.0%
13	不動産仲介及び賃貸	4.8	1.9	6.7	2.6	2.2%	1.5%	1.9%
14	電力	4.4	2.0	6.4	3.7	2.0%	1.5%	1.8%
15	運輸附帯サービス	3.2	3.1	6.3	5.4	1.5%	2.3%	1.8%
16	通信	4.5	1.4	5.8	4.0	2.1%	1.0%	1.7%
17	自家輸送	3.4	2.2	5.6	2.8	1.6%	1.7%	1.6%
18	化学最終製品	3.2	1.1	4.3	4.4	1.5%	0.8%	1.2%
19	住宅賃貸料	2.5	1.4	3.9	2.7	1.1%	1.1%	1.1%
20	廃棄物処理	1.9	1.8	3.6	1.6	0.9%	1.3%	1.0%
21	自動車整備・機械修理	1.0	2.5	3.5	2.3	0.5%	1.9%	1.0%
22	その他の製造工業製品	2.8	0.6	3.4	3.8	1.3%	0.4%	1.0%
23	医療	2.0	1.2	3.2	2.4	0.9%	0.9%	0.9%
24	航空輸送	0.3	2.8	3.1	1.8	0.2%	2.1%	0.9%
25	石油製品	1.7	1.3	2.9	1.7	0.8%	0.9%	0.8%
26	放送	2.3	0.6	2.9	3.9	1.1%	0.4%	0.8%
27	教育	1.8	1.1	2.9	2.3	0.8%	0.8%	0.8%
28	娯楽サービス	1.4	1.1	2.5	2.3	0.6%	0.9%	0.7%
29	建設補修	1.3	0.9	2.1	1.0	0.6%	0.7%	0.6%
30	水道	1.3	0.7	2.0	1.3	0.6%	0.6%	0.6%
31	飲料	1.2	0.7	1.9	1.5	0.5%	0.6%	0.5%
32	社会保険・社会福祉	1.2	0.7	1.9	1.3	0.6%	0.5%	0.5%
33	耕種農業	0.9	0.7	1.6	1.0	0.4%	0.5%	0.4%
34	物品賃貸サービス	1.0	0.5	1.5	1.3	0.5%	0.4%	0.4%
35	乗用車	1.0	0.6	1.5	1.0	0.4%	0.4%	0.4%
36	ガス・熱供給	1.1	0.4	1.5	1.1	0.5%	0.3%	0.4%
37	インターネット附随サービス	1.0	0.5	1.5	0.3	0.5%	0.4%	0.4%
38	他に分類されない会員制団体	0.9	0.5	1.5	1.1	0.4%	0.4%	0.4%
39	情報サービス	0.8	0.5	1.3	0.9	0.4%	0.4%	0.4%
40	プラスチック製品	0.5	0.8	1.3	1.0	0.2%	0.6%	0.4%

② 家計への雇用効果

生産の増加は、就業者数の増加につながる。TGCは1日だけのイベントであるため、静岡市内や県内での恒常的な雇用増加は見込めないが、1日だけの生産の大きな増加が雇用市場に与えるインパクトを通年の正規雇用換算で表すと、静岡市内で23.7人（前回20.0人）、静岡市も含めた静岡県内へは37.6人（28.9人）、静岡県を含む全国では90.9人（80.4人）の雇用を創出するインパクトを持っている（表24）。

産業別には、会場設営や運営にかかわる「その他の他事業所サービス」の雇用効果が静岡市内3.2人、静岡市を含む静岡県内7.7人となっている。

参加者の支出にかかわる産業では、「商業」は、静岡市5.1人（1.3人）、静岡県内7.1人（2.1人）となっている。「飲食サービス」は、静岡市で2.3人（1.1人）、静岡市を含む静岡県内3.0人（1.5人）と多い。

繰り返しになるが、この雇用効果は、正規雇用者を通年で雇いあげた効果として算出しているため、数字が小さいように見えるが、1日だけのイベントであるTGCしずおか2026が通年で正規就業者の雇用機会を創出する力を持っている威力は大きい。

表24 雇用効果（雇用機会創出効果）

(単位:人)				(単位:人)				
順位	静岡市の雇用効果(人)	静岡市内	(参考) 2025年	順位	静岡県の雇用効果(人)	静岡市を除く	静岡市を含む	(参考) 2025年
	合計	23.7	20.0		合計	13.9	37.6	28.9
1	商業	5.1	1.3	1	その他の対事業所サービス	4.5	7.7	13.5
2	その他の対事業所サービス	3.2	9.3	2	商業	2.0	7.1	2.1
3	洗濯・理容・美容・浴場業	2.8	0.9	3	その他の対個人サービス	1.2	2.4	0.6
4	飲食サービス	2.3	1.1	4	洗濯・理容・美容・浴場業	1.0	3.7	1.2
5	衣服・その他の繊維既製品	1.7	1.5	5	飲食サービス	0.7	3.0	1.5
6	宿泊業	1.3	0.7	6	宿泊業	0.6	1.9	0.8
7	その他の対個人サービス	1.3	0.2	7	鉄道輸送	0.4	0.7	0.4
8	なめし革・革製品・毛皮	1.0	1.2	8	衣服・その他の繊維既製品	0.4	2.1	3.3
9	道路輸送(バス・タクシー)	0.7	0.3	9	耕種農業	0.3	0.7	0.7
10	耕種農業	0.4	0.4	10	道路輸送(バス・タクシー)	0.2	0.9	0.6

(注) (参考)は静岡市を含む静岡県の数字である。

(単位:人)				
順位	全国の雇用効果(人)	静岡県を除く	静岡県を含む	(参考) 2025年
	合計	53.2	90.9	80.4
1	鉄道輸送	14.8	15.6	6.4
2	広告	10.5	10.9	9.9
3	商業	4.8	11.9	6.4
4	その他の対事業所サービス	4.0	11.6	21.4
5	映像・音声・文字情報制作	2.9	3.1	3.3
6	インターネット附随サービス	2.3	2.3	2.3
7	宿泊業	1.5	3.4	1.6
8	耕種農業	1.5	2.1	2.5
9	食料品	0.8	1.3	0.6
10	金融・保険	0.8	1.4	0.8

③ 行政への税収効果

行政への効果である税収効果は、静岡市の歳入効果が460万円（前回370万円）、静岡県では970万円（740万円）となった（表25）。

表25 静岡市・静岡県の税収効果

1. 静岡市の税収効果

（単位：100万円）

静岡市の税収効果		課税標準対応項目 (産業連関表項目)	R2年産業 連関表より	R3年度 一般会計 税収額等	税率 係数	各誘発額	税収効果	(参考) 2025年
記号・算式			A	B	$t=B/A$	ΔX	$\Delta T=\Delta X \cdot t$	
市税	1.1 市町村民税(個人)	雇用者所得合計	1,506,351	56,736	0.0377	62.8	2.4	1.3
	1.2 市町村民税(法人)	営業余剰合計	589,883	8,135	0.0138	15.9	0.2	0.3
	2 固定資産税(注1)	設備投資額	506,002	-	-	18.2	0.2	0.3
	3 軽自動車税(注3)	市内生産額合計	5,976,678	1,750	0.0003	215.0	0.1	0.0
	4 市町村たばこ税	民間消費支出計	1,680,599	4,324	0.0026	59.6	0.2	0.1
	5 入湯税	民間消費支出計	1,680,599	31	0.0000	59.6	0.0	0.0
	6 事業所税	市内生産額合計	5,976,678	4,306	0.0007	215.0	0.2	0.1
7 都市計画税	市内生産額合計	5,976,678	10,404	0.0017	215.0	0.4	0.3	
市税合計							3.5	2.4
地方 交付 金	1 地方譲与税	市内生産額合計	5,976,678	2,436	0.0004	215.0	0.1	0.1
	2 地方交付税(注2)	域内総生産額	3,138,885	9,760	0.0031	111.2	0.3	0.3
	3 地方消費税交付金	民間消費支出	1,680,599	17,435	0.0104	59.6	0.6	0.6
	4 その他	域内総生産額	3,138,885	2,449	0.0008	111.2	0.1	0.3
地方交付金等合計							1.1	1.3
市町村税及び経済活動関連交付金増収額(合計)							4.6	3.7

(注1) 固定資産税については、課税標準(対象額)×課税対象価格調整係数0.7×税率1.4%で算出している。

(注2) 利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、ゴルフ場利用税交付金、特別地方消費税交付金、自動車取得税交付金など、経済活動を反映した交付金

(注3) (参考)2025年欄の軽自動車税の税収を、前回報告書では1.6(100万円)としていたが算出方法を変更した。それに伴い合計額も修正した。

2. 静岡県の税収効果

（単位：100万円）

静岡県の税収効果		課税標準対応項目 (産業連関表項目)	R2年産業 連関表より	R3年度 一般会計 税収額等	税率 係数	各誘発額	税収効果	(参考) 2025年
記号・算式			A	B	$t=B/A$	ΔX	$\Delta T=\Delta X \cdot t$	
県税	1.1 県民税(個人)	雇用者所得合計	8,575,474	114,561	0.0134	102.4	1.4	1.3
	1.2 県民税(法人)	営業余剰合計	2,647,648	10,858	0.0041	23.2	0.1	0.2
	1.3 利子割・配当割等	雇用者所得・営業余剰	11,223,122	9,525	0.0008	125.6	0.1	0.0
	2 事業税	県内生産額合計	33,335,776	116,957	0.0035	348.2	1.2	1.0
	3 地方消費税	民間消費支出	8,445,277	163,220	0.0193	91.5	1.8	0.8
	4 不動産取得税	域内総生産額(GRP)	16,609,833	10,712	0.0006	180.0	0.1	0.1
	5 県たばこ税	民間消費支出	8,445,277	3,698	0.0004	91.5	0.0	0.1
	6 ゴルフ場利用税	民間消費支出	8,445,277	2,159	0.0003	91.5	0.0	0.0
	7 自動車税	県内生産額合計	33,335,776	56,309	0.0017	348.2	0.6	0.0
8 軽油引取税ほか	県内生産額合計	33,335,776	36,612	0.0011	348.2	0.4	0.3	
9 その他税	域内総生産額(GRP)	16,609,833	127,625	0.0077	180.0	1.4	1.6	
県税小計							5.7	3.8
地方 交付 金	1 地方譲与税	県内生産額合計	33,335,776	55,429	0.0017	348.2	0.6	0.1
	2 地方交付税	域内総生産額(GRP)	16,609,833	156,943	0.0094	180.0	1.7	1.9
	4 各種交付金ほか	域内総生産額(GRP)	16,609,833	154,404	0.0093	180.0	1.7	1.6
地方交付金等合計							4.0	3.6
県税及び経済活動関連交付金増収額(合計)							9.7	7.4

(注1) 平成元年に税率が10%に改定されたことから、平成27年と平成28年度の対比ではなく令和3年の民間消費支出と令和4年度地方消費税収額を対比させて税率を算出している。

(注2) (参考)2025年欄の利子割・配当割等の税収を、前回報告書では1.6(100万円)としていたが算出方法を変更した。それに伴い合計額も修正した。

④ 地域社会への定住人口効果

生産が増え、雇用機会が創出されれば、家族を含めた定住人口の増加につながる。生産誘発効果に伴う雇用効果が、定住人口の増加につながる考え方を図 19 に図示した。

上述した雇用効果は、生産活動を支える就業者数なので、市外から通勤している就業者を除く「市内雇用係数」 $(A \div (A+B))$ を乗じて、静岡市内居住の就業者数への雇用効果を算出する。また、静岡市の例でいえば、静岡市の人口を支えている就業者数は $(A+C)$ であるから、このうち、静岡市内に居住し、静岡市内で働いている就業者数によって支えられている人口は、静岡市人口 D に「市内定住人口係数」 $[A / (A+C)]$ の割合を乗じた人数である。

こうして算出した定住人口効果の推計結果は、静岡市では通年換算で 42 人（前回 35 人）、静岡市を含む静岡県内では通年換算で 73 人（前回 56 人）であった（表 26）。

図 19 定住人口効果を求める考え方

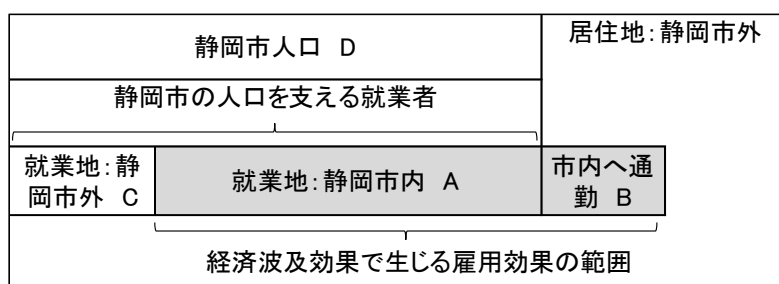


表 26 定住人口効果と計算手順

(静岡市の定住人口効果)

項目	記号・算式	基礎数 (人)	比率
静岡市人口	D	704,989	
うち就業者(夜間)	A+C	350,852	1.000
うち市内で就業する者	A	322,813	0.920
うち市外で就業する者	C	28,039	0.080
Aによって支えられている人口	$D_a = D \times A / (A+C)$	648,648	
Aに対する D_a の比率(定住人口係数)	$e = D_a / A$	2.009	
就業者(昼間)	A+B	366,648	1.000
うち市外居住者	B	43,835	0.120
うち市内居住者	A	322,813	0.880
市内雇用効果係数	$f = A / (A+B)$	0.880	
定住人口効果 = 雇用効果 × 市内雇用効果係数 f × 定住人口係数 e			
雇用効果		23.7 人	
定住人口効果		42 人	

(注) 雇用効果と各係数は四捨五入して表出されているため、計算結果が表の数字と一致しない

(静岡県の定住人口効果)

項目	記号・算式	基礎数 (人)	比率
静岡県人口	D	3,700,305	
うち就業者(夜間)	A+C	1,865,158	1.000
うち県内で就業する者	A	1,831,022	0.982
うち県外で就業する者	C	34,136	0.018
Aによって支えられている人口	$Da = D \times A / (A+C)$	3,632,582	
Aに対するDaの比率(定住人口係数)	$e = Da / A$	1.984	
就業者(昼間)	A+B	1,864,886	1.000
うち県外居住者	B	33,864	0.018
うち県内居住者	A	1,831,022	0.982
県内雇用効果係数	$f = A / (A+B)$	0.982	
定住人口効果 = 雇用効果 × 市内雇用効果係数 f × 定住人口係数 e			
雇用効果(静岡市を含む)		37.6 人	
定住人口効果(静岡市を含む)		73 人	

(注) 雇用効果と各係数は四捨五入して表出されているため、計算結果が表の数字と一致しない

TGC しずおか 2026 は上述したように 8,000 人の来場者を迎えた 1 日だけのイベントであるが、これは、静岡県内において、年間で 8,000 人の来客と 1 億 7,260 万円(最終需要)を売り上げる企業または店舗を 1 つ創出したことに相当する効果である。

定住人口効果は、この企業あるいはお店が企業の内外で働く人を通じて、その家族を静岡県内で 73 人支える力を持っていることを意味している。

TGC しずおか 2026 の数字で表される経済効果は以上のとおりであるが、本イベントの目的である SDGs への啓発を通じた自由で平等な多様性ある社会、自然環境と調和した社会づくりへ与える効果は、金銭評価が難しいが、確実に歩を進めていることを忘れてはならない。

(報告書 了)